

Mac OS X 版 VMware Horizon View Client の使用

2014 年 1 月
Horizon View

このドキュメントは新しいエディションに置き換わるまで、
ここで書いてある各製品と後続のすべてのバージョンをサ
ポートします。このドキュメントの最新版をチェックする
には、<http://www.vmware.com/jp/support/pubs> を参
照してください。

JA-000668-00

vmware[®]

最新の技術ドキュメントは VMware の Web サイト (<http://www.vmware.com/jp/support/>) にあります
VMware の Web サイトでは最新の製品アップデートも提供されています。

このドキュメントに関するご意見およびご感想がある場合は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

Copyright © 2010–2014 VMware, Inc. 無断転載を禁ず。著作権および商標情報.

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

VMware株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

目次

Mac OS X 版 VMware Horizon View Client の使用	5
1 セットアップとインストール	7
Mac クライアントのシステム要件	7
リアルタイム オーディオ ビデオのシステム要件	8
サポートされているデスクトップのオペレーティング システム	9
Horizon View Client 向けの View 接続サーバの準備	9
View Portal で表示される View Client のダウンロード リンクの構成	9
Mac OS X に Horizon View Client をインストール	11
Dock への Horizon View Client の追加	12
エンドユーザーの証明書確認の構成	12
VMware が収集する Horizon View Client のデータ	12
2 URI を使用した構成 Horizon View Client	15
vmware-view URI を作成するための構文	16
vmware-view URI の例	18
3 サーバ接続とデスクトップの管理	21
リモート デスクトップへの初回ログイン	21
Horizon View Client の証明書チェック モード	23
デスクトップの検索	24
デスクトップの切り替え	24
デスクトップからのログオフまたは切断	24
ホーム画面からの View Server ショートカットの削除	25
View Server または View デスクトップのショートカットの順序変更	25
デスクトップのロールバック	26
4 Mac での Microsoft Windows デスクトップの使用	27
機能サポーター一覧	27
国際化	28
モニタおよび画面解像度	28
USB デバイスの接続	29
Mac OS X Client で USB リダイレクトを設定	31
USB リダイレクトのプロパティ	33
USB デバイス ファミリ	35
USB リダイレクト用のログ処理をオンにする	36
Webcam とマイクロフォンでリアルタイム オーディオ ビデオ機能を使用	36
Webcam を使用できる場合	37
Mac OS X クライアント システムでのデフォルトのマイクロフォンの選択	37
Mac OS X クライアント上でのリアルタイム オーディオ ビデオの構成	38
Mac OS X クライアント システムでの優先する Web カメラまたはマイクロフォンの構成	39

テキストとイメージのコピー アンド ペースト	40
リモート デスクトップからの印刷	41
Mac OS X Client で仮想印刷を有効にする	41
仮想プリンタ機能の印刷設定を行う	42
USB プリンタの使用	43
PCoIP クライアントサイド イメージ キャッシュ	43
5 Horizon View Client のトラブルシューティング	45
デスクトップのリセット	45
Horizon View Client のアンインストール	46
インデックス	47

Mac OS X 版 VMware Horizon View Client の使用

本ガイド『Mac OS x 版 VMware Horizon View Client の使用』では、VMware® Horizon View™ ソフトウェアを Mac にインストールし、これを使用してデータセンターのリモート デスクトップに接続する方法について説明します。

このドキュメントの情報には、Mac OS X 版 Horizon View Client をインストールし、使用するためのシステム要件と手順が含まれます。

これらの情報は、Mac クライアント デバイスを含む Horizon View の展開環境をセットアップする必要のある管理者を対象としています。これらの情報は、仮想マシン テクノロジーおよびデータ センターの運用に精通している経験豊富なシステム管理者向けに記述されています。

セットアップとインストール

Mac クライアント向けに Horizon View 環境をセットアップするには、特定の View 接続サーバ構成を使用し、View Server と Mac クライアントのシステム要件に適合させ、VMware の Web サイトから Mac 版 Horizon View Client をダウンロードしてインストールします。

この章では次のトピックについて説明します。

- [Mac クライアントのシステム要件 \(P. 7\)](#)
- [リアルタイム オーディオ ビデオのシステム要件 \(P. 8\)](#)
- [サポートされているデスクトップのオペレーティングシステム \(P. 9\)](#)
- [Horizon View Client 向けの View 接続サーバの準備 \(P. 9\)](#)
- [View Portal で表示される View Client のダウンロード リンクの構成 \(P. 9\)](#)
- [Mac OS X に Horizon View Client をインストール \(P. 11\)](#)
- [Dock への Horizon View Client の追加 \(P. 12\)](#)
- [エンドユーザーの証明書確認の構成 \(P. 12\)](#)
- [VMware が収集する Horizon View Client のデータ \(P. 12\)](#)

Mac クライアントのシステム要件

Mac OS X 10.6.8 またはそれ以降のオペレーティングシステムを使用する Intel ベースのすべてのモデルに Mac OS X 版の Horizon View Client をインストールできます。

Horizon View Client をインストールする Mac とその周辺機器は、一定のシステム要件を満たしている必要があります。

モデル	Intel ベースの Mac
メモリ	2GB 以上の RAM
オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none">■ Mac OS X 版 Horizon View Client 2.2 および 2.3: Mac OS X Snow Leopard (10.6.8)、Mac OS X Lion (10.7)、Mac OS X Mountain Lion (10.8)、および Mac OS X Mavericks (10.9)■ Mac OS X 版 Horizon View Client 2.0 および 2.1: Mac OS X Snow Leopard (10.6.8)、Mac OS X Lion (10.7)、および Mac OS X Mountain Lion (10.8)■ Mac OS X 版 View Client 1.6 および 1.7: Mac OS X Snow Leopard (10.6.8)、Mac OS X Lion (10.7)、および Mac OS X Mountain Lion (10.8)

	<ul style="list-style-type: none"> Mac OS X 版 View Client 1.4 および 1.5: Mac OS X Snow Leopard (10.6.8) および Mac OS X Lion (10.7)
View 接続サーバ、セキュリティ サーバ、および View Agent	<p>VMware View 4.6.x 以降の最新メンテナンス リリース</p> <p>企業のファイアウォールの外部からクライアントシステムが接続する場合には、セキュリティ サーバを使用することを推奨します。セキュリティ サーバでは、クライアントシステムで VPN 接続が必要にはなりません。</p>
Horizon View 用の表示プロトコル	PCoIP または RDP
RDP のソフトウェア要件	<p>Microsoft の Remote Desktop Connection Client for Mac バージョン 2.0 から 2.1.1。このクライアントは Microsoft の Web サイトからダウンロードできます。</p> <hr/> <p>注意 Mac OS X 版 Horizon View Client は、Microsoft Remote Desktop 8.0 以降のリリースと組み合わせて使用することができません。</p>
仮想印刷のシステム要件	Horizon View Client 2.1 以降

リアルタイム オーディオ ビデオのシステム要件

リアルタイム オーディオ ビデオは、標準的な webcam、USB オーディオ、およびアナログ オーディオ デバイス、そして Skype、WebEx、および Google Hangouts などの標準的な会議アプリケーションで動作します。リアルタイム オーディオ ビデオをサポートするには、Horizon View の展開が特定のソフトウェアおよびハードウェア要件を満たす必要があります。

Horizon View リモート デスクトップ	<p>デスクトップには View Agent 5.2 以降をインストールする必要があります。デスクトップには対応する Remote Experience Agent もインストールする必要があります。たとえば、View Agent 5.3 がインストールされている場合は、Remote Experience Agent を Horizon View 5.3 Feature Pack 1 からインストールする必要があります。VMware Horizon View については、『VMware Horizon View 機能パック インストールおよび管理ガイド』を参照してください。</p>
Horizon View Client ソフトウェア	Mac OS X 版 Horizon View Client 2.3 または以降のリリース
Horizon View Client コンピュータまたはクライアント アクセス デバイス	<ul style="list-style-type: none"> リアルタイム オーディオ ビデオは、Mac OS X Mountain Lion (10.8) 以降でサポートされています。それよりも前のすべての Mac OS X オペレーティング システムでは無効になっています。 webcam およびオーディオ デバイス ドライバをインストールする必要があります。webcam およびオーディオ デバイスがクライアント コンピュータで操作可能である必要があります。リアルタイム オーディオ ビデオをサポートするために、View Agent がインストールされているデスクトップ オペレーティング システムにデバイス ドライバをインストールする必要はありません。
Horizon View 用の表示プロトコル	<p>PCoIP</p> <p>リアルタイム オーディオ ビデオは、RDP デスクトップ セッションでサポートされません。</p>

サポートされているデスクトップのオペレーティング システム

管理者は、ゲスト オペレーティング システムを使用して仮想マシンを作成し、そのゲスト オペレーティング システムに View Agent をインストールします。エンド ユーザーは、クライアント デバイスからこれらの仮想マシンにログインできます。

サポートされているオペレーティング システムのリストについては、『Horizon View 4.6.x または 5.x インストール ガイド』の「View Agent でサポートされているオペレーティング システム」のトピックを参照してください。

Horizon View Client 向けの View 接続サーバの準備

エンド ユーザーがリモート デスクトップに接続できるようにするには、管理者が特定のタスクを実行する必要があります。

エンド ユーザーが View 接続サーバまたはセキュリティ サーバに接続して、リモート デスクトップにアクセスできるようになるには、特定のプールの設定およびセキュリティの設定を構成する必要があります。

- VMware が推奨するようにセキュリティ サーバを使用している場合は、View 接続サーバ 4.6.x の最新メンテナンス リリースと View セキュリティ サーバ 4.6.x 以降のリリースを使用していることを確認します。『VMware Horizon View インストール ガイド』を参照してください。
- クライアント デバイスに安全なトンネル接続を使用する予定で、その安全な接続が View 接続サーバまたはセキュリティ サーバの DNS ホスト名を使用して構成される場合には、この DNS 名がクライアント デバイスによって解決できることを確認します。

安全なトンネルを有効または無効にするには、View Administrator で [View 接続サーバ設定の編集] ダイアログ ボックスに移動して、[デスクトップへの安全なトンネル接続を使用する] チェックボックスを使用します。

- デスクトップ プールが作成済みであること、および使用する予定のユーザー アカウントにリモート デスクトップへのアクセス権が付与されていることを確認します。『VMware Horizon View 管理ガイド』のデスクトップ プールの作成についてのトピックを参照してください。
- Horizon View Client で、RSA SecurID または RADIUS 認証などの 2 要素認証を使用するには、View 接続サーバでこの機能を有効にする必要があります。RADIUS 認証は、View 5.1 以降の View 接続サーバで使用できます。詳細については、『VMware Horizon View 管理ガイド』の 2 要素認証についてのトピックを参照してください。

View Portal で表示される View Client のダウンロード リンクの構成

デフォルトでは、ブラウザを開いて View 接続サーバ インスタンスの URL を入力すると、Horizon View Client をダウンロードするための VMware Download サイトへのリンクを含むポータル ページが表示されます。このデフォルトは変更できます。

ポータル ページのデフォルトの Horizon View Client リンクを使用すれば、互換性のある最新の Horizon View Client インストーラを確実にダウンロードできます。ただし、社内の Web サーバへのリンクを表示したり、特定のクライアント バージョンを View 接続サーバで使用できるようにしたりしたい場合もあるでしょう。異なる URL をポイントするためにページを再構成できます。

Mac OS X、Linux、および Windows のクライアント システムのリンクを作成すると、そのオペレーティング システムの正しいリンクがポータル ページに表示されます。たとえば、Windows システムからポータル ページを参照すると、Windows インストーラのリンクだけが表示されます。32 ビット版インストーラと 64 ビット版インストーラ用のリンクは、個別に作成することができます。iOS や Android のシステムのリンクも作成できますが、これらのオペレーティング システムは自動的に検出されないため、たとえば、iPad からポータル ページを参照すると、iOS と Android の両方のリンクを作成した場合は、両方のリンクが表示されます。

重要 本トピックで説明したようにポータル ページのリンクをカスタマイズし、後でサーバに VMware Horizon View HTML Access をインストールすると、カスタマイズしたポータル ページは、HTML Access ページに置き換わります。そのページのカスタマイズの詳細については、VMware Horizon View HTML Access の使用を参照してください。

開始する前に

- ご使用の環境に適する Horizon View Client のタイプのインストーラ ファイルをダウンロードします。クライアントダウンロード ページの URL は <https://www.vmware.com/go/viewclients> です。
- どの HTTP サーバがインストーラ ファイルをホストするかを決定します。View 接続サーバ インスタンスまたは他の HTTP サーバにファイルを置くことができます。

手順

- 1 インストーラ ファイルが置かれている HTTP サーバにインストーラ ファイル用のフォルダを作成します。

たとえば、デフォルト インストール ディレクトリで View 接続サーバ ホストの **downloads** フォルダにファイルを配置するには、以下のパスを使用します。

C:\Program Files\VMware\VMware View\Server\broker\webapps\downloads

ファイルへのリンクは、以下のフォーマットの URL を使用します。 **https://<server-name>/downloads/<client-installer-file-name>**。たとえば、**view.mycompany.com** という名前のサーバは、Windows 版 View Client で以下の URL を使用します。

https://view.mycompany.com/downloads/VMware-Horizon-View-Client.exe。この例では、**downloads** という名前のフォルダは、ルート フォルダの **webapps** に置かれます。

- 2 インストーラ ファイルをこのフォルダにコピーします。

フォルダが View 接続サーバに置かれている場合、VMware View 接続サーバ サービスを再起動することなく、このフォルダのファイルを置き換えることができます。

- 3 View 接続サーバ マシンでは、**<install-path>\Server\Extras\PortalExamples** に置かれている **portal-links.properties** ファイルおよび **portal.properties** ファイルをコピーします。

- 4 **portal** フォルダを **C:\ProgramData\VMware\VDM** ディレクトリに作成し、**portal-links.properties** および **portal.properties** ファイルを **portal** フォルダにコピーします。

- 5 **C:\ProgramData\VMware\VDM\portal\portal-links.properties** ファイルを編集して、インストーラ ファイルの新しい場所をポイントします。

このファイルの行を編集して、さらにリンクを作成する必要がある場合はリンクを追加できます。行を削除することもできます。

以下の例は、Windows 版 View Client に 2 つのリンク、そして Linux 版 View Client に 2 つのリンクを作成するためのプロパティを示しています。

```
link.win=https://<varname id="VARNAME_B2B27F517DB04754B1CCF5F1411BA59E">server-name</varname>/downloads/VMware-Horizon-View-Client-x86_64-<varname id="VARNAME_7CD50CBABC614BCD976B2575FEDEF1F2">y.y.y-XXXX</varname>.exe#win
link.win.1=https://<varname id="VARNAME_8243922EA8B44DC3A2E9A360C4DDC304">server-name</varname>/downloads/VMware-Horizon-View-Client-<varname id="VARNAME_9D2A6519E01D4ADA9B701FDB8785B141">y.y.y-XXXX</varname>.exe#win
link.linux=https://<varname id="VARNAME_C62EA29FFF1047D1A350C57AD8006223">server-name</varname>/downloads/VMware-Horizon-View-Client-x86_64-<varname id="VARNAME_B664011E02154BBD9479411042551944">y.y.y-XXXX</varname>.rpm#linux
link.linux.1=https://<varname id="VARNAME_C498001B66334F39A59E2610D499EAA8">server-name</varname>/downloads/VMware-Horizon-View-Client-<varname id="VARNAME_D5652EFD7B75490F873921D2AFF8D9B0">y.y.y-XXXX</varname>.tar.gz#linux
```

この例では、**<y.y.y-XXXX>** はバージョンとビルド番号を示します。行の最後の **win** テキストは、クライアントが Windows オペレーティングシステムを持つ場合にこのリンクがブラウザに表示される必要があることを示します。Windows には **win**、Linux には **linux**、そして Mac OS X には **mac** を使用します。その他のオペレーティングシステムには **unknown** を使用します。

- 6 C:\ProgramData\VMware\VDM\portal\portal.properties ファイルを編集して、リンクで表示するテキストを指定します。

これらの行は、# keys based on key names in portal-links.properties キーと呼ばれるファイルのセクションに表示されます。

以下の例は、link.win および link.win.1 に指定されたリンクに対応するテキストを示します。

```
text.win=View Client for Windows 32 bit Client users
text.win.1=View Client for Windows 64 bit Client users
```

- 7 VMware View 接続サーバ サービスを再起動します。

View 接続サーバの URL をエンドユーザーが入力すると、指定したテキストでリンクが表示されます。リンクは指定した場所をポイントします。

Mac OS X に Horizon View Client をインストール

エンドユーザーは、Horizon View Client を開いて、Mac OS X の物理マシンから仮想デスクトップに接続します。Horizon View Client は、ディスク イメージ ファイルから Mac OS X クライアント システムにインストールします。

開始する前に

- クライアントシステムがサポートされているオペレーティングシステムを使用していることを確認します。[「Mac クライアントのシステム要件 \(P. 7\)」](#) を参照してください。
- クライアントシステムに管理者としてログインできることを確認します。
- RDP 表示プロトコルを使用してリモート デスクトップに接続する予定の場合には、Mac クライアント システムに Microsoft の Remote Desktop Connection Client for Mac のバージョン 2.0 以降がインストールされていることを確認します。
- VMware Horizon View Client インストーラを含むダウンロード ページの URL を調べておきます。この URL は、VMware Downloads ページ (<http://www.vmware.com/go/viewclients>)、または View 接続サーバ インスタンスの URL である場合があります。

View 接続サーバの URL を参照すると、デフォルトでは、そのポータル ページのリンクは VMware Downloads ページをポイントします。リンクを構成することで、異なる場所をポイントするようにできます。詳細については、[「View Portal で表示される View Client のダウンロード リンクの構成 \(P. 9\)」](#) を参照してください。ページの構成方法によっては、VMware Horizon View HTML Access のリンクが表示されることもあります。HTML Access では、クライアント ソフトウェアをインストールすることなく、ブラウザを使用して、仮想デスクトップに接続できます。VMware Horizon View Client は HTML Access クライアントよりも多くの機能を提供し、優れたパフォーマンスを発揮するため、通常、このクライアント ソフトウェアをインストールすることを推奨します。

手順

- 1 Mac から、Horizon View Client インストーラ ファイルをダウンロードするための URL を参照します。
ファイル名のフォーマットは、**VMware-Horizon-View-Client-<y.y.y>-<xxxxxx>.dmg** です。<xxxxxx> はビルド番号であり、<y.y.y> はバージョン番号です。
- 2 **.dmg** ファイルをダブルクリックして開き、[同意する] をクリックします。
ディスク イメージの内容は、Horizon View Client Finder ウィンドウに表示されます。
- 3 [Finder] ウィンドウで、[View Client VMware Horizon View] アイコンを[アプリケーション] フォルダ アイコンにドラッグします。
管理者ユーザーとしてログインしていない場合、管理者のユーザー名とパスワードの入力が求められます。

次に進む前に

Horizon View Client を起動して、正しいリモート デスクトップにログインできることを確認します。[「リモート デスクトップへの初回ログイン \(P. 21\)」](#) を参照してください。

Dock への Horizon View Client の追加

他のアプリケーションと同じような操作で、Horizon View Client を Dock に追加できます。

手順

- 1 [アプリケーション] フォルダで、[VMware Horizon View Client] を選択します。
- 2 [VMware Horizon View Client] アイコンを Dock にドラッグします。
- 3 ログイン時に Horizon View Client を開く [Dock] アイコンを設定したり、Finder にアイコンを表示したりするには、[オプション] を選択して、コンテキスト メニューから適切なコマンドを選択します。

Horizon View Client を終了すると、アプリケーション ショートカットが Dock に残ります。

エンドユーザーの証明書確認の構成

管理者は、証明書検証モードを構成し、たとえば、完全な検証を常に実行するようにすることができます。

証明書確認は、View 接続サーバと Horizon View Client 間の SSL 接続に対して実行されます。管理者は、次のいずれかの方法を使用するように検証モードを構成できます。

- エンド ユーザーに検証モードの選択を許可します。このリストのこれ以降では、3 つの検証モードを説明します。
- (検証なし) 証明書確認は実行されません。
- (警告) 自己署名証明書がサーバによって提示されると、エンド ユーザーに警告が通知されます。ユーザーは、このタイプの接続を許可するかどうかを選択できます。
- (フル セキュリティ) フル検証が実行され、フル検証をパスしない接続は拒否されます。

実行される検証確認のタイプの詳細については、[「Horizon View Client の証明書チェック モード \(P. 23\)」](#) を参照してください。

エンド ユーザーが変更できないように、検証モードを設定できます。Mac クライアントの `/Library/Preferences/com.vmware.view.plist` ファイルの「Security Mode」キーを、次のいずれかの値に設定します。

- **1** は 信用できないサーバに接続しない を実装します。
- **2** は 信用できないサーバに接続する前に警告する を実装します。
- **3** は サーバ ID 証明書を確認しない を実装します。

VMware が収集する Horizon View Client のデータ

所属する企業がカスタマー エクスペリエンス向上プログラムに参加している場合、VMware は Horizon View Client の特定フィールドのデータを収集します。機密情報が含まれるフィールドは、匿名扱いとなります。

注意 この機能は、現在の Horizon View の配置が View 接続サーバ 5.1 以降を実装している場合に限り使用できます。View Client 1.7 以降のクライアントの場合、クライアント情報が送信されます。

VMware は、クライアント上で情報を収集し、ハードウェアとソフトウェアの互換性を優先度付けします。社内の管理者がカスタマー エクスペリエンス向上プログラムへの参加を決めた場合、VMware はお客様のご要望に対する VMware の対応を改善する目的で、現在ご使用の配置に関する匿名データを収集します。企業が特定できるような情報は収集されません。Horizon View Client の情報は最初に View 接続サーバに送信されてから、Horizon View サーバ、デスクトップ プール、およびリモート デスクトップのデータと共に VMware に送られます。

情報は View 接続サーバへ送信される途中で暗号化されますが、クライアントシステムの情報は暗号化なしで、ユーザー固有のディレクトリ内に記録されます。この記録には、個人情報は含まれません。

VMware カスタマー エクスペリエンス向上プログラムに参加するには、View 接続サーバ をインストールする管理者が View 接続サーバインストールウィザードを実行しているときに選択するか、インストール後に View Administrator でオプションを設定します。

表 1-1. カスタマー エクスペリエンス向上プログラムに関して Horizon View Client から収集されるデータ

説明	このフィールドは匿名になりますか？	値の例
Horizon View Client アプリケーションのメーカー	いいえ	VMware
製品名	いいえ	VMware Horizon View Client
クライアント製品のバージョン	いいえ	この形式は <x.x.x-yyyyyy> です (<x.x.x> はクライアントのバージョン番号、<yyyyyy> はビルド番号)。
クライアントのバイナリ アーキテクチャ	いいえ	以下に例を挙げます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ i386 ■ x86_64 ■ arm
クライアントのビルド名	いいえ	以下に例を挙げます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ VMware-Horizon-View-Client-Win32-Windows ■ VMware-Horizon-View-Client-Linux ■ VMware-Horizon-View-Client-iOS ■ VMware-Horizon-View-Client-Mac ■ VMware-Horizon-View-Client-Android ■ VMware-Horizon-View-Client-WinStore
ホスト OS	いいえ	以下に例を挙げます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Windows 8.1 ■ Windows 7、64 ビット Service Pack 1 (Build 7601) ■ iPhone OS 5.1.1 (9B206) ■ Ubuntu 10.04.4 LTS ■ Mac OS X 10.7.5 (11G63)
ホスト OS のカーネル	いいえ	以下に例を挙げます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Windows 6.1.7601 SP1 ■ Darwin Kernel バージョン 11.0.0:Sun Apr 8 21:52:26 PDT 2012;root:xnu-1878.11.10~1/RELEASE_ARM_S5L8945X ■ Darwin 11.4.2 ■ Linux 2.6.32-44-generic #98-Ubuntu SMP Mon Sep 24 17:27:10 UTC 2012 ■ 不明 (Windows ストア版)
ホスト OS のアーキテクチャ	いいえ	以下に例を挙げます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ x86_64 ■ i386 ■ armv71 ■ ARM
ホスト システムのモデル	いいえ	以下に例を挙げます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Dell Inc. OptiPlex 960 ■ iPad3,3 ■ MacBookPro8,2 ■ Dell Inc. Precision WorkStation T3400 (A04 03/21/2008)

表 1-1. カスタマー エクスペリエンス向上プログラムに関して Horizon View Client から収集されるデータ (続き)

説明	このフィールドは匿名 になりますか？	値の例
ホスト システムの CPU	いいえ	以下に例を挙げます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Intel(R) Core(TM)2 Duo CPU E8400 @ 3.00GH ■ Intel(R) Core(TM)2 Quad CPU Q6600 @ 2.40GH ■ 不明 (iPad)
ホスト システムのプロセッサのコア数	いいえ	例： 4
ホスト システムのメモリ容量 (MB)	いいえ	以下に例を挙げます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 4096 ■ 不明 (Windows ストア版)

URI を使用した構成 Horizon View Client

2

Uniform Resource Identifier (URI) を使用して作成できるリンク付きの Web ページや電子メールでは、エンドユーザーがクリックすると Horizon View Client が起動したり、View 接続サーバに接続したり、特定の構成オプションを持つ特定のデスクトップを起動したりできます。

エンドユーザー用の Web または電子メールのリンクを作成することで、リモート デスクトップへのログイン プロセスを簡素化できます。部分的または以下のすべての情報を提供する URI を作成することでこれらのリンクを作成すれば、エンドユーザーは入力する必要がありません。

- View 接続サーバのアドレス
- View 接続サーバのポート番号
- Active Directory ユーザー名
- ドメイン名
- デスクトップ表示名
- ウィンドウ サイズ
- セッションのリセット、ログオフ、開始を含むデスクトップ アクション
- 表示プロトコル
- USB デバイスをリダイレクトするオプション

URI を作成するには、Horizon View Client 固有のパスとクエリ部分と共に **vmware-view** URI スキーマを使用します。

注意 クライアント ソフトウェアがエンドユーザーのクライアント コンピュータにすでにインストールされている場合にのみ、URI を使用して Horizon View Client を起動することが可能です。

この章では次のトピックについて説明します。

- [vmware-view URI を作成するための構文 \(P. 16\)](#)
- [vmware-view URI の例 \(P. 18\)](#)

vmware-view URI を作成するための構文

構文には、**vmware-view** URI スキーム、デスクトップを指定するためのパス部分、そしてオプションでデスクトップのアクションまたは構成オプションを指定するためのクエリが含まれます。

VMware Horizon View URI の仕様

以下の構文を使用して Horizon View Client を起動するための URI を作成します。

```
vmware-view://[<varname id="VARNAME_E0F8F9951BC4471D9871655A18782C9E">authority-
part</varname>][/<varname id="VARNAME_7B21DCA6CDE942BBB914ADD20452590B">path-
part</varname>][?<varname id="VARNAME_217F9AF17A3745369FD8E2154505D735">query-
part</varname>]
```

必要となる唯一の要素は URI スキーム **vmware-view** です。一部のクライアント OS のバージョンによっては、スキーマ名は大文字と小文字の区別があります。したがって、**vmware-view** を使用してください。

重要 すべての部分で、非 ASCII 文字は UTF-8 [STD63] に基づいて最初にエンコードされる必要があります。次に対応する UTF-8 シーケンスの各オクテットは、URI 文字として表されるパーセントでエンコードされる必要があります。

ASCII 文字のエンコードについての詳細は、<http://www.utf8-chartable.de/> の URL エンコーディング資料を参照してください。

<authority-part>

サーバアドレス、オプションでユーザー名、非デフォルト ポート番号、またはその両方を指定します。サーバ名は、DNS 構文に一致する必要があります。

ユーザー名を指定するには、以下の構文を使用します：

```
user1@<varname
id="VARNAME_640D14F5E64B44E189F204DC09A8248B">server-
address</varname>
```

ドメインが含まれる UPN アドレスを指定できません。ドメインを指定するには、URI で **domainName** クエリ部分を使用できます。

ポート番号を指定するには、以下の構文を使用します：

```
<varname
id="VARNAME_1BAB6153D2834B1490509093A1961D1F">server-
address</varname>:<varname
id="VARNAME_2296A4E54893485C852FFE94067114D7">port-
number</varname>
```

<path-part>

デスクトップを指定します。デスクトップ表示名を使用します。表示名にスペースが含まれている場合、**%20** エンコーディング機能を使用してスペースを表します。

<query-part>

使用するための設定オプション、または実行するデスクトップ アクションを指定します。クエリは大文字と小文字の区別がありません。複数のクエリを使用するには、クエリの間にアンパサンド (&) を使用します。クエリが違いに競合する場合、リストの最後のクエリが使用されます。次の構文を使用します：

```
<varname
id="VARNAME_48A6B3A0E1184943BC1206017B78B9D5">query1</varname
>=<varname
id="VARNAME_9B9916FF3D3540D4AA5622F9C828F072">value1</varname
>[&<varname
```



```
id="VARNAME_6BCA2912EC454A5683D586754BF89DCE">query2</varname
>=<varname
id="VARNAME_F698C39E83D34D639C943ACDF828BAFE">value2</varname
>...] ]
```

サポートされるクエリ

このトピックでは、このタイプの Horizon View Client でサポートされるクエリを示します。デスクトップ クライアントやモバイル クライアントなどの複数のクライアント タイプ用に URI を作成する場合は、クライアント システムの各タイプの『VMware Horizon View Client の使用』を参照してください。

操作

表 2-1. アクション クエリで使用できる値

値	説明
参照	指定したサーバにホストされている使用可能なデスクトップのリストを表示します。このアクションを使用している場合、デスクトップを指定する必要はありません。 参照 アクションを使用し、デスクトップを指定する場合、デスクトップは使用できるデスクトップのリストで強調表示されます。
スタート セッション	指定したデスクトップを起動します。アクション クエリが提供されず、デスクトップ名が提供されなければ、 スタート セッション がデフォルト アクションとなります。
リセット	指定したデスクトップをシャットダウンして再起動します。保存されていないデータは失われます。リモート デスクトップのリセットは、物理 PC のリセット ボタンを押すことに相当します。
ログオフ	リモート デスクトップのゲスト OS からユーザーをログオフします。
ロールバック	Windows PC またはノートパソコンのローカル モードを使用するためにチェックアウト中に、指定したデスクトップに行った変更を取り消します。

connectUSBOnInsert

(Horizon View Client 1.7 以降の場合) デバイスを接続したときにフォアグラウンド 仮想デスクトップに USB デバイスを接続します。このクエリは、**unattended** クエリを指定している場合に暗黙的に設定されます。このクエリを使用するには、**action** クエリを **start-session** に設定する必要があります。さもないと、**action** クエリを持ちません。有効な値は、**true** および **false** です。構文の例は、**connectUSBOnInsert=true** です。

connectUSBOnStartup

(Horizon View Client 1.7 以降の場合) クライアント システムに現在接続されているすべての USB デバイスをデスクトップにリダイレクトします。このクエリは、**unattended** クエリを指定している場合に暗黙的に設定されます。このクエリを使用するには、**action** クエリを **start-session** に設定する必要があります。さもないと、**action** クエリを持ちません。有効な値は、**true** および **false** です。構文の例は、**connectUSBOnStartup=true** です。

desktopLayout

リモート デスクトップを表示するウィンドウのサイズを設定します。このクエリを使用するには、**action** クエリを **start-session** に設定する必要があります。さもないと、**action** クエリを持ちません。

表 2-2. desktopLayout クエリの有効値

値	説明
fullscreen	接続されているすべての外部モニターでフル スクリーン。これはデフォルトです。
windowLarge	大きなウィンドウ。

表 2-2. desktopLayout クエリの有効値 (続き)

値	説明
windowSmall	小さなウィンドウ。
<W>x<H>	カスタム解像度で、幅と高さをピクセルで指定します。構文の例は、 desktopLayout=1280x800 です。

desktopProtocol	有効な値は、 RDP および PCoIP です。たとえば、PCoIP を指定するには、 desktopProtocol=PCoIP 構文を使用します。
domainName	リモート デスクトップに接続しているユーザーに関連付けられているドメイン。

vmware-view URI の例

vmware-view URI スキームでハイパーテキストリンクまたはボタンを作成し、これらのリンクを電子メールまたは Web ページに含めることができます。エンド ユーザーはこれらのリンクをクリックして、たとえば、指定した起動オプションで特定のリモート デスクトップを起動できます。

URI 構文の例

各 URI の例に続いて、URI リンクをクリック後にエンド ユーザーに表示される事柄について説明します。

1 vmware-view://view.mycompany.com/Primary%20Desktop?action=start-session

Horizon View Client が起動され、**view.mycompany.com** サーバに接続されます。ログイン ボックスが表示され、ユーザー名、ドメイン名、およびパスワードをユーザーに求めます。ログインに成功すると、クライアントはディスプレイ名が [Primary Desktop (プライマリ デスクトップ)] として表示されるデスクトップに接続し、ユーザーはゲスト OS にログインされます。

注意 デフォルトの表示プロトコルおよびウィンドウ サイズが使用されます。デフォルトの表示プロトコルは PCoIP です。デフォルトのウィンドウ サイズはフルスクリーンです。

2 vmware-view://view.mycompany.com:7555/Primary%20Desktop

この URI は前の例と同じ効果がありますが、View 接続サーバに 7555 の非デフォルト ポートを使用するところが異なります (デフォルトのポートは 443 です)。デスクトップ ID が提供されるので、デスクトップは **start-session** アクションが URI に含まれていない場合であっても起動されます。

3 vmware-view://fred@view.mycompany.com/Finance%20Desktop?desktopProtocol=PCoIP

Horizon View Client が起動され、**view.mycompany.com** サーバに接続されます。ログイン ボックスで、[ユーザー名] テキスト ボックスに [fred] という名前が入力されます。ユーザーはドメイン名とパスワードを入力する必要があります。ログインに成功すると、クライアントはディスプレイ名が [Finance Desktop (ファイナンス デスクトップ)] として表示されるデスクトップに接続し、ユーザーはゲスト OS にログインされます。PCoIP 表示プロトコルを使用して接続します。

4 vmware-view://fred@view.mycompany.com/Finance%20Desktop?domainName=mycompany

Horizon View Client が起動され、**view.mycompany.com** サーバに接続されます。ログイン ボックスで、[ユーザー名] テキスト ボックスに [fred] という名前が入力され、[ドメイン] テキスト ボックスに [mycompany] が入力されます。ユーザーはパスワードを入力する必要があるだけです。ログインに成功すると、クライアントはディスプレイ名が [Finance Desktop (ファイナンス デスクトップ)] として表示されるデスクトップに接続し、ユーザーはゲスト OS にログインされます。

5 vmware-view://view.mycompany.com/

Horizon View Client が起動され、**view.mycompany.com** サーバに接続するためのログイン画面が表示されます。

6 vmware-view://view.mycompany.com/Primary%20Desktop?action=reset

Horizon View Client が起動され、**view.mycompany.com** サーバに接続されます。ログイン ボックスが表示され、ユーザー名、ドメイン名、およびパスワードをユーザーに求めます。ログインに成功すると、Horizon View Client には、プライマリ デスクトップのリセット操作を確認するように指示するダイアログ ボックスが表示されます。クライアントのタイプによっては、リセットが行われた後、リセットが成功したかどうかを示すメッセージがユーザーに表示される場合があります。

注意 このアクションは、View 管理者がこの機能をエンド ユーザーに対して有効にしている場合にのみ可能です。

7 vmware-view://

Horizon View Client が起動され、View 接続サーバインスタンスのアドレスを入力するページが表示されます。

HTML コードの例

URI を使用してハイパー リンクおよびボタンを作成し、電子メールまたは Web ページに含めることができます。以下の例は、[Test Link (テスト リンク)] というハイパー リンクおよび [TestButton] というボタンのコードを記述するために最初の URI の例から URI を使用する方法を示します。

```
<html>
<body>

<a href="vmware-view://view.mycompany.com/Primary%20Desktop?action=start-session">Test Link</a><br>

<form><input type="button" value="TestButton" onClick="window.location.href='vmware-view://view.mycompany.com/Primary%20Desktop?action=start-session'"></form>
<br>

</body>
</html>
```


サーバ接続とデスクトップの管理

Horizon View Client を使用して View 接続サーバまたはセキュリティ サーバに接続し、リモート デスクトップにログインするか、リモート デスクトップからログオフします。トラブルシューティングを目的として、自分に割り当てられたリモート デスクトップをリセットすることもできます。

管理者によるリモート デスクトップのポリシーの構成方法によっては、エンド ユーザーはデスクトップで多くの操作を実行できるようになります。

この章では次のトピックについて説明します。

- [リモート デスクトップへの初回ログイン \(P. 21\)](#)
- [Horizon View Client の証明書チェック モード \(P. 23\)](#)
- [デスクトップの検索 \(P. 24\)](#)
- [デスクトップの切り替え \(P. 24\)](#)
- [デスクトップからのログオフまたは切断 \(P. 24\)](#)
- [ホーム画面からの View Server ショートカットの削除 \(P. 25\)](#)
- [View Server または View デスクトップのショートカットの順序変更 \(P. 25\)](#)
- [デスクトップのロールバック \(P. 26\)](#)

リモート デスクトップへの初回ログイン

エンド ユーザーがリモート デスクトップにアクセスする前に、クライアントシステムからリモート デスクトップにログインすることが可能であることをテストします。

開始する前に

- Active Directory ユーザー名とパスワード、RSA SecurID ユーザー名とパスコード、RADIUS 認証ユーザー名とパスコードなどのログインに必要な認証情報を取得します。
- ログイン用のドメイン名を取得します。
- 管理タスクの実行については、[\[Horizon View Client 向けの View 接続サーバの準備 \(P. 9\)\]](#) で説明しています。
- 社内ネットワークの外部から接続し、リモート デスクトップへのアクセスにセキュリティ サーバを使用していない場合、使用しているクライアント デバイスが VPN 接続を使用していることを確認し、この接続をオンにします。

重要 VMware では、VPN よりもセキュリティ サーバの使用を推奨しています。

- リモート デスクトップへのアクセスを提供するサーバの完全修飾ドメイン名 (FQDN) があることを確認します。ポート番号が 443 ではない場合は、ポート番号も必要です。

- RDP 表示プロトコルを使用してリモート デスクトップに接続する予定である場合は、AllowDirectRDP View Agent グループ ポリシーが有効になっていることを確認します。
- 管理者が許可している場合、View server から提示される SSL 証明書について、証明書確認モードを構成できます。[\[Horizon View Client の証明書チェック モード \(P. 23\)\]](#) を参照してください。
- エンドユーザーが Microsoft RDP 表示プロトコルの使用を許可されている場合は、Microsoft の Remote Desktop Connection Client for Mac のバージョン 2.0 以降がクライアント システムにインストールされていることを確認します。このクライアントは Microsoft の Web サイトからダウンロードできます。

手順

- 1 [アプリケーション] フォルダで、[VMware Horizon View Client] をダブルクリックします。
- 2 [続行] をクリックしてリモート デスクトップ USB および印刷サービスを開始するか、[キャンセル] をクリックしてリモート デスクトップ USB および印刷サービスなしで Horizon View Client を使用します。

[続行] をクリックする場合、システム認証情報を提供する必要があります。[キャンセル] をクリックする場合、リモート デスクトップ USB および印刷サービスを後で有効にできます。

注意 リモート デスクトップ USB および印刷サービスを開始するためのプロンプトは、Horizon View Client を初めて起動したときに表示されます。これは [キャンセル] または [続行] をクリックするかどうかに関係なく、再び表示されません。

- 3 Horizon View Client のホーム画面で [サーバの追加] アイコンをクリックします。
- 4 必要に応じてサーバ名とポート番号を入力し、[続行] をクリックします。
view.company.com:1443 は、デフォルト以外のポートを使用した一例です。
- 5 RSA SecurID の認証情報または RADIUS の認証証明書の入力を求められた場合、ユーザー名とパスワードを入力して [続行] をクリックします。
- 6 ユーザー名とパスワードを入力し、ドメインを選択して、[続行] をクリックします。
ログイン ダイアログ ボックスが表示される前に、確認する必要があることを知らせるメッセージが表示されます。
- 7 デスクトップセキュリティ インジケーターが赤に変わり、警告メッセージが表示されたら、プロンプトに応答します。
通常、この警告は View 接続サーバが証明書サムプリントをクライアントに送信しなかったことを示します。サムプリントは証明書公開鍵のハッシュであり、公開鍵を省略したものとして使用されます。View 接続サーバ 4.6.1、5.0.1 以降のバージョンは、サムプリント情報を送信しますが、以前のバージョンではこれを実行しません。
- 8 (オプション) プロトコルを選択します。
デフォルトは、[PCoIP] です。代わりに Microsoft RDP を使用する場合、デスクトップ名の下にある [PCoIP] をクリックして切り替え、[RDP] を選択します。
- 9 リモート デスクトップのショートカットをダブルクリックして、接続します。

接続した後、クライアント ウィンドウが表示されます。Horizon View Client がデスクトップに接続できない場合は、次のタスクを実行します。

- View 接続サーバを SSL を使用しないように構成するかどうかを決定します。Horizon View Client では SSL 接続が必要です。View Administrator のグローバル設定で、[クライアント接続に SSL を使用する] チェック ボックスが選択されていないかどうかを確認します。このチェックボックスが選択されていない場合、チェックボックスを選択して SSL を使用する必要があります。または、HTTPS が有効なロード バランサや View 接続サーバへの HTTP 接続を作成するように構成されている他の中間デバイスにクライアントが接続できるように環境をセットアップする必要があります。
- View 接続サーバ用のセキュリティ証明書が正常に動作していることを確認します。正常に動作していない場合は、View Administrator で、デスクトップの View Agent が到達不能になる場合もあります。

- View 接続サーバ インスタンスで設定されているタグがこのユーザーからの接続を許可していることを確認します。『VMware Horizon View 管理ガイド』を参照してください。
- ユーザーがこのデスクトップにアクセスする資格を付与されていることを確認します。『VMware Horizon View 管理ガイド』を参照してください。
- RDP 表示プロトコルを使用してリモート デスクトップに接続する場合は、クライアント コンピュータでリモート デスクトップ接続が許可されていることを確認します。

Horizon View Client の証明書チェック モード

管理者は、またときにはエンド ユーザーは、サーバの証明書チェックが失敗した場合にクライアント接続を拒否するかどうかを設定できます。

証明書確認は、View 接続サーバと Horizon View Client 間の SSL 接続に対して実行されます。証明書検査では、次のような検査が行われます。

- 証明書の目的は、送信側の ID 検証やサーバ通信の暗号化以外にあるか。つまり、証明書のタイプは正しいか。
- 証明書は期限切れになっているか、また有効なのは未来のみか。つまり、証明書はコンピュータの時刻に応じて有効になっているか。
- 証明書上の共通名は、それを送信するサーバのホスト名と一致しているか。ロード バランサが Horizon View Client を、Horizon View Client に入力したホスト名と一致しない証明書を持つサーバにリダイレクトすると、不一致が発生する可能性があります。クライアントにホスト名ではなく IP アドレスを入力した場合でも、不一致の原因となる可能性があります。
- 不明なまたは信頼されていない証明機関 (CA) によって署名された証明書か。自己署名された証明書は、信頼されていない CA の証明書タイプの 1 つです。

チェックをパスするには、証明書のトラスト チェーンが、デバイスのローカル証明書ストアでルートになっている必要があります。

注意 自己署名付ルート証明書を配布して Mac OS X クライアントシステムにインストールする手順については、Apple の Web サイトから入手できる、Mac OS X Server の『Advanced Server Administration』ドキュメントを参照してください。

サーバ証明書を提示するほかに、バージョン 4.6.1 および 5.0.1 以降の View 接続サーバは Horizon View Client に証明書のサムプリントも送信します。サムプリントは証明書公開鍵のハッシュであり、公開鍵を省略したものとして使用されます。View server がサムプリントを送信しない場合、接続が信頼されていないことを知らせる警告が表示されます。

管理者が許可している場合、証明書確認モードを設定することができます。メニュー バーから [VMware Horizon View Client] - [環境設定] を選択します。選択肢は次の 3 つです。

- [信頼が確認されていないサーバには絶対に接続しない]。証明書の確認に失敗した場合、クライアントはサーバに接続できなくなります。失敗したチェックは、エラー メッセージに一覧表示されます。
- [信頼されていないサーバに接続する前に警告する]。サーバが自己署名証明書を使用していることが原因で、証明書の確認に失敗した場合、[続行] をクリックして警告を無視することができます。自己署名証明書の場合、証明書名は Horizon View Client に入力した View 接続サーバ名と一致する必要はありません。
- [サーバ ID 証明書を検証しない]。この設定は、証明書チェックは View によって一切実行されないことを意味します。

証明書確認モードが [警告] に設定されている場合でも、自己署名証明書を使用する View 接続サーバインスタンスに接続することができます。

後で管理者が信頼される証明機関からのセキュリティ証明書をインストールし、接続時のすべての証明書チェックにパスするようになると、この信頼された接続はその特定のサーバに対して記録されます。その後、このサーバが自己署名証明書を再び提示すると、接続は失敗します。特定のサーバが完全に検証可能な証明書を提示した後は、必ずその処理が行われます。

デスクトップの検索

View Server に接続すると、そのサーバで利用可能なデスクトップが [デスクトップ選択] ウィンドウに表示されます。Horizon View Client 2.3 以降では、[デスクトップ セレクタ] ウィンドウに入力することで特定のデスクトップを検索できます。

入力を始めると、一致する最初のデスクトップ名がハイライト表示されます。Horizon View Client ハイライト表示されたデスクトップに接続するには、Enter キーを押します。最初の一致の後で入力続けると、一致するデスクトップの検索が継続されます。Horizon View Client 一致するデスクトップが複数見つかった場合は、Tab キーを押すと次の一致に切り替えることができます。入力を 2 秒間やめてから再び開始すると、新しい検索を開始したものとみなされます。Horizon View Client

デスクトップの切り替え

デスクトップに接続している場合に、別のデスクトップに切り替えることができます。

手順

- ◆ 同じサーバ上、または異なるサーバからリモート デスクトップを選択します。

オプション	操作
同じサーバの異なるリモート デスクトップを選択する	Horizon View Client 2.1 以降では、[デスクトップ選択] ウィンドウで、異なるデスクトップ プールを表すアイコンをダブルクリックします。ツールバーの [切断] ボタンをクリックするか、メニュー バーから [デスクトップ] - [切断] を選択する方法もあります。 Horizon View Client 2.0 以前のバージョンでは、ツールバーの [切断] ボタンをクリックするか、メニュー バーから [デスクトップ] - [切断] を選択します。
異なるサーバの異なるリモート デスクトップを選択する	Horizon View Client 2.1 以降では、複数のデスクトップを使用する資格がある場合は、[デスクトップ選択] ウィンドウが開くので、このウィンドウのツールバーの右側にある [サーバから切断] ボタンをクリックしてサーバから切断します。1 つのデスクトップしか使用する資格がない場合は [デスクトップ選択] ウィンドウが開きませんが、メニュー バーから [デスクトップ] - [切断] を選択してから Horizon View Client を再起動し、異なるサーバに接続できます。 Horizon View Client 2.0 以前のバージョンでは、Horizon View Client ウィンドウのツールバーの右側にある [サーバから切断] ボタンをクリックします。

デスクトップからのログオフまたは切断

ログオフせずにリモート デスクトップから切断すると、アプリケーションは開いたままになります。

リモート デスクトップを開いていなくても、リモート デスクトップ オペレーティングシステムからログオフできます。この機能を使用すると、デスクトップに <Ctrl> + <Alt> + を送信してから [ログオフ] をクリックするのと同じ結果になります。

注意 Windows のキーの組み合わせ Ctrl+Alt+Del は、リモート デスクトップでサポートされていません。<Ctrl> + <Alt> + の代わりに、メニュー バーから [デスクトップ] - [Ctrl+Alt+Del の送信] を選択することもできます。

または、Apple のキーボードで <Fn> + <Control> + <Option> + <Delete> を押します。

手順

- ログオフせずに切断する。

オプション	操作
デスクトップから切断して Horizon View Client を終了する	ウィンドウの隅にある [閉じる] ボタンをクリックするか、メニュー バーの [ファイル] - [閉じる] を選択します。
デスクトップから切断して Horizon View Client にとどまる	ツールバーの [切断] ボタンをクリックするか、メニュー バーから [切断] - [デスクトップ] を選択します。

注意 View 管理者は、切断された時点で自動的にログオフするようにデスクトップを設定できます。その場合、デスクトップで開いているプログラムは停止します。

- デスクトップからのログオフおよび切断

オプション	操作
デスクトップのオペレーティングシステムで	Windows の [スタート] メニューを使用してログオフします。
メニュー バーから	メニュー バーから [デスクトップ] - [ログオフ] を選択します。 この手順を使用すると、初めに、リモート デスクトップで開いているファイルが保存されずに閉じられます。

- リモート デスクトップが開いていないときにログオフします。

この手順を使用すると、初めに、リモート デスクトップで開いているファイルが保存されずに閉じられます。

オプション	操作
サーバ ショートカットがあるホーム画面から	a サーバショートカットをダブルクリックし、認証情報を入力します。 認証情報には、RSA SecurID 認証情報やデスクトップにログインするための認証情報が含まれる場合があります。 b デスクトップを選択し、メニュー バーから [デスクトップ] - [ログオフ] を選択します。
デスクトップ ショートカットがあるホーム画面から	デスクトップを選択し、メニュー バーから [デスクトップ] - [ログオフ] を選択します。

ホーム画面からの View Server ショートカットの削除

View Server に接続すると、サーバのショートカットが Horizon View Client のホーム画面に保存されます。

View 接続サーバのショートカットを選択して、Delete キーを押すか、ホーム画面でショートカットをコントロールクリックまたは右クリックして、[削除] を選択して、ショートカットを削除できます。

サーバに接続した後に表示されるリモート デスクトップのショートカットは削除できません。

View Server または View デスクトップのショートカットの順序変更

Horizon View Client 2.3 以降では、View Server とリモート デスクトップのショートカットの順序を変更できます。

View Server に接続するたびに、サーバのショートカットが Horizon View Client のホーム画面に保存されます。View Server のショートカットを選択してホーム画面の新しい位置にドラッグすると、これらのショートカットの順序を変更できます。

View Server に接続すると、そのサーバで利用可能なデスクトップが [デスクトップ選択] ウィンドウに表示されます。リモート デスクトップのショートカットを選択して [デスクトップ選択] ウィンドウの新しい位置にドラッグすると、これらのショートカットの順序を変更できます。

デスクトップのロールバック

ロールバックは、Windows PC またはノートパソコン上のローカル モードでの使用のためにチェックアウトした仮想デスクトップに行った変更を廃棄することになります。

View 管理者がこの機能を有効にし、デスクトップがチェックアウトされている場合のみ、リモート デスクトップをロールバックできます。



注意 ローカル モードのデスクトップが変更され、ロールバック前に変更が View server にレプリケートされない場合は、変更は失われます。

開始する前に

- Active Directory ユーザー名とパスワード、RSA SecurID ユーザー名とパスコード、RADIUS 認証ユーザー名とパスコードなどのログインに必要な認証情報を取得します。
- データまたはファイルを保存するために、デスクトップをサーバにバックアップします。

View Administrator を使ってデータをサーバにレプリケートするか、ポリシーが許可する設定の場合、デスクトップが現在チェックアウトされている Windows クライアントのローカル モードで View Client を使用できます。

手順

- 1 Horizon View Client のホーム画面に View 接続サーバのショートカットが表示される場合、デスクトップにアクセスするサーバのショートカットをダブルクリックして認証情報を入力します。
 - a RSA SecurID の認証情報または RADIUS の認証証明書の入力を求められた場合、ユーザー名とパスコードを入力して [続行] をクリックします。
 - b ログイン ダイアログ ボックスでユーザー名とパスワードを入力します。
- 2 リモート デスクトップのショートカットを表示している Horizon View Client のホーム画面で、デスクトップを選択して、メニュー バーから [デスクトップ > ロールバック] を選択します。

リモート デスクトップがロールバックされた後、Mac クライアントからログインできます。

Mac での Microsoft Windows デスクトップの使用

4

Mac OS X 版 Horizon View Client では、複数の機能をサポートしています。

この章では次のトピックについて説明します。

- [機能サポート一覧 \(P. 27\)](#)
- [国際化 \(P. 28\)](#)
- [モニタおよび画面解像度 \(P. 28\)](#)
- [USB デバイスの接続 \(P. 29\)](#)
- [Webcam とマイクロフォンでリアルタイム オーディオ ビデオ機能を使用 \(P. 36\)](#)
- [テキストとイメージのコピー アンド ペースト \(P. 40\)](#)
- [リモート デスクトップからの印刷 \(P. 41\)](#)
- [PCoIP クライアントサイドイメージ キャッシュ \(P. 43\)](#)

機能サポート一覧

一部の機能は、Horizon View Client のタイプによってサポートされる場合とされない場合があります。たとえば、ローカル モードは、Windows 版 Horizon View Client でのみサポートされます。

表 4-1. Mac OS X クライアント用 Windows デスクトップでサポートされる機能

機能	Windows 8.x デスクトップ	Windows 7 デ スクトップ	Windows Vista デスク トップ	Windows XP デスクトップ	Windows Server 2008 R2 デスクトップ
RSA SecurID または RADIUS	○	○	○	○	○
シングル サインオン	○	○	○	○	○
PCoIP 表示プロトコル	○	○	○	○	○
RDP 表示プロトコル	○	○	○	○	○
USB アクセス	○	○	○	○	○
リアルタイム オーディオ ビデオ (RTAV)	X	X	X	X	X
Wyse MMR					
Windows 7 MMR					
仮想プリンタ	○	○	○	○	
ロケーション ベースの印刷	○	○	○	○	
スマート カード					

表 4-1. Mac OS X クライアント用 Windows デスクトップでサポートされる機能 (続き)

機能	Windows 8.x デスクトップ	Windows 7 デ スクトップ	Windows Vista デスク トップ	Windows XP デスクトップ	Windows Server 2008 R2 デスクトップ
複数のモニタ	○	○	○	○	○
ローカル モード					

Mac OS X 版 Horizon View Client 向け Windows デスクトップでサポートされている機能には、以下の制限があります。

- Windows 8.x デスクトップは、Horizon View 5.2 以降のサーバおよびデスクトップを所有している場合に限ってサポートされます。
- Windows Server 2008 R2 デスクトップは、Horizon View 5.3 以降のサーバおよびデスクトップを所有している場合に限ってサポートされます。
- Windows 8.1 デスクトップとの RDP 接続の確立については、VMware KB の記事 (<http://kb.vmware.com/kb/2059786>) を参照してください。
- リアルタイム オーディオ ビデオ機能は、Horizon View 5.2 Feature Pack 2 以降を使用している場合に限ってサポートされます。要件の完全なリストについては、「[リアルタイム オーディオ ビデオのシステム要件 \(P. 8\)](#)」を参照してください。

上記の機能の詳細および制限事項については、『VMware Horizon View プランニング ガイド』を参照してください。

国際化

ユーザー インターフェイスとドキュメントは、英語、日本語、フランス語、ドイツ語、簡体中国語、繁体中国語、および韓国語で利用可能です。

モニタおよび画面解像度

Horizon View Client 2.0 以降で PCoIP 表示プロトコルを使用すると、リモート デスクトップを複数のモニタに拡張できます。Retina Display の Mac であれば、リモート デスクトップをフル解像度で表示できます。

複数のモニタを使用

リモート デスクトップにアクセスするときに PCoIP 表示プロトコルを使用すると、最大 2560x1600 の解像度で 2 台のモニタを使用できます。モニタを 2 台使用する場合、モニタを縦または横に並べることができます。

3D レンダリング機能を有効にしている場合、最大解像度は 1920x1200 になります。3D アプリケーションの例には、Windows Aero テーマ、Microsoft Office 2010、および Google Earth が含まれます。

リモート デスクトップを複数のモニタに拡張するには、[ウィンドウ] - [フル スクリーン] メニュー項目または Horizon View Client ウィンドウの右上隅の拡張矢印を使用します。

OS X Mavericks (10.9) の Mac を使用する場合、[システム環境設定] を開き、[Mission Control] をクリックし、[ディスプレイごとに個別の操作スペース] の選択をオフにします。変更を有効にするには、ログアウトする必要があります。

Retina Display 搭載の高解像度 Mac でのリモート デスクトップの表示

PCoIP 表示プロトコルを使用すると、Horizon View Client により、Retina Display 搭載のクライアント システムで非常に高い解像度もサポートされます。リモート デスクトップにログインしたら、[デスクトップ] - [解像度] - [フル解像度] メニュー項目を選択できます。クライアント システムが Retina Display をサポートする場合に限って、このメニュー項目が表示されます。

[フル解像度]を使用すると、リモート デスクトップのアイコンは小さくなりますが、表示は鮮明になります。クライアント システムを外部モニタに接続すると、表示は[ノーマル]に再び変わります。

USB デバイスの接続

リモート デスクトップから、小型のフラッシュドライブ、カメラ、プリンタなどのローカルで接続された USB デバイスを使用できます。この機能は USB リダイレクトと呼ばれます。

この機能を使用すると、ローカルクライアントシステムに接続されているほとんどの USB デバイスを Horizon View Client のメニューから使用できるようになります。デバイスの接続や接続解除にもこのメニューを使用します。

リモート デスクトップで USB デバイスを使用するには、次のような制限があります。

- Horizon View Client のメニューから USB デバイスにアクセスして、リモート デスクトップでそのデバイスを使用しているとき、ローカル コンピュータ上ではそのデバイスにアクセスできません。
- キーボードやポインティング デバイスなどのヒューマン インターフェイス デバイスを含め、メニューには表示されないが、リモート デスクトップには表示される USB デバイス。リモート デスクトップとローカル コンピュータは、これらのデバイスを同時に使用します。これらのデバイスとのやりとりは、ネットワーク遅延のため低速になる場合があります。
- 大容量 USB ディスク ドライブは、デスクトップに表示されるまでに数分かかる場合があります。
- USB デバイスによっては特定のドライバが必要になります。必要なドライバがまだリモート デスクトップにインストールされていない場合、USB デバイスをリモート デスクトップに接続するとドライバのインストールを求められます。
- Android ベースの Samsung 製スマートフォンやタブレットなどの MTP ドライバを使用するデバイスを接続する場合には、USB デバイスをリモート デスクトップに自動接続するように Horizon View Client を設定する必要があります。そうしないと、メニュー項目を使用して USB デバイスを手動でリダイレクトしようとしても、デバイスを取り外して接続し直さない限りリダイレクトできません。
- USB リダイレクトでは Web カメラはサポートされません。
- USB オーディオ デバイスのリダイレクトは、ネットワークの状態に依存し、信頼できません。一部のデバイスでは、アイドル状態のときでさえ、高いデータ スループットが必要です。

USB デバイスをリモート デスクトップに手動または自動で接続できます。

注意 USB イーサネット接続をリモート デスクトップへリダイレクトしないでください。リモート デスクトップは、ローカル システムが接続済みであれば、ネットワークに接続することができます。リモート デスクトップと USB デバイスとの自動接続がすでに設定してあれば、例外を追加してイーサネット接続を除外することができます。[\[Mac OS X Client で USB リダイレクトを設定 \(P. 31\)\]](#) を参照してください。

開始する前に

- リモート デスクトップで USB デバイスを使用するには、View 管理者がリモート デスクトップの USB 機能を有効にしておく必要があります。

このタスクには、View Agent の [USB リダイレクト] コンポーネントのインストールが含まれます。手順は、『VMware Horizon View 管理者ガイド』の仮想マシンの作成と準備についての章を参照してください。

このタスクには、USB リダイレクトを許可するためのグループ ポリシの設定も含まれる場合があります。詳細については、『VMware Horizon View 管理者ガイド』の「View Agent の USB 設定」を参照してください。

- 初めて USB デバイスを接続する場合は、管理者パスワードを入力する必要があります。そのときには、Horizon View Client が入力を求めるメッセージを表示します。

Horizon View Client によって事前にインストールされている USB リダイレクトに必要な一部のコンポーネントを構成する必要があります。この構成には管理者権限が必要になります。

手順

- 手動で USB デバイスをリモート デスクトップに接続します。
 - a USB 機能を初めて使用するときは、VMware Horizon View Client メニューバーで[デスクトップ] - [USB] - [リモート デスクトップ USB サービスを開始]をクリックし、メッセージが表示されたら管理者のパスワードを入力します。
または、Horizon View Client ウィンドウの左上隅の USB デバイス アイコンをクリックします。
 - b USB デバイスをローカル クライアント システムに接続します。
 - c [VMware Horizon View Client] メニュー バーから [デスクトップ] - [USB] をクリックします。
 - d USB デバイスを選択します。

デバイスは手動でローカル システムからリモート デスクトップにリダイレクトされます。

- ローカル システムに USB デバイスを接続したときに、それらが自動的にリモート デスクトップに接続されるように Horizon View Client を構成します。

Android ベースの Samsung 製スマート フォンやタブレットなどの MTP ドライバを使用するデバイスを接続する予定がある場合、この自動接続機能を使用する必要があります。

- a USB デバイスを接続する前に、Horizon View Client を起動してリモート デスクトップに接続します。
- b USB 機能を初めて使用するときは、VMware Horizon View Client メニューバーで[デスクトップ] - [USB] - [リモート デスクトップ USB サービスを開始]をクリックし、メッセージが表示されたら管理者のパスワードを入力します。
または、Horizon View Client ウィンドウの左上隅の USB デバイス アイコンをクリックします。
- c [VMware Horizon View Client] メニュー バーから [デスクトップ] - [USB] - [挿入時に USB デバイスを自動接続]を選択します。
- d USB デバイスを接続します。

Horizon View Client を起動した後にローカル システムに接続する USB デバイスは、リモート デスクトップにリダイレクトされます。

- Horizon View Client の起動時に USB デバイスがリモート デスクトップに自動的に接続されるように Horizon View Client を構成します。
 - a USB 機能を初めて使用するときは、VMware Horizon View Client メニューバーで[デスクトップ] - [USB] - [リモート デスクトップ USB サービスを開始]をクリックし、メッセージが表示されたら管理者のパスワードを入力します。
または、Horizon View Client ウィンドウの左上隅の USB デバイス アイコンをクリックします。
 - b [VMware Horizon View Client] メニュー バーから [デスクトップ] - [USB] - [起動時に USB デバイスを自動接続]を選択します。
 - c USB デバイスを挿入し、Horizon View Client を再起動します。

Horizon View Client の起動時にローカル システムに接続される USB デバイスは、リモート デスクトップにリダイレクトされます。

USB デバイスがデスクトップに表示されます。これには最大 20 秒かかります。デバイスをデスクトップに初めて接続すると、ドライバのインストールを求められる場合があります。

USB デバイスが数分経過してもデスクトップに表示されない場合、デバイスを切断してクライアント コンピュータに再接続してください。

次に進む前に

USB のリダイレクトで問題がある場合、『VMware Horizon View 管理ガイド』の USB リダイレクトのトラブルシューティングについてのトピックを参照してください。

Mac OS X Client で USB リダイレクトを設定

Horizon View Client 1.7 以降のバージョンでは、管理者はクライアントシステムを構成して、どの USB デバイスをリモート デスクトップにリダイレクトできるかを指定できます。

リモート デスクトップ上の View Agent、およびローカル システム上の Horizon View Client の両方に対して USB ポリシーを構成することで、以下のことを達成できます。

- Horizon View Client によってリダイレクトに使用できる USB デバイスのタイプを制限する。
- View Agent を特定の USB デバイスがクライアント コンピュータからフォワードされないようにします。
- (Horizon View Client 2.0 以降) Horizon View Client でコンポジット USB デバイスを個別のコンポーネントに分割して、リダイレクト対応にするかどうかを指定する。

コンポジット USB デバイスは、ビデオ入力デバイスやストレージ デバイスなど、2 つ以上のデバイスの組み合わせで構成されます。

クライアント上での構成設定は、リモート デスクトップの View Agent に設定された対応するポリシーによって結合または無効にされる場合があります。View Agent USB ポリシーに関連してクライアントで USB 設定がどのように機能するかについての詳細は、『VMware Horizon View 管理者ガイド』の USB リダイレクトを制御するためのポリシーの使用についてのトピックを参照してください。

重要 USB リダイレクト機能は、View Agent および View 接続サーバが Horizon View 4.6.1 以降のバージョンである場合にのみ使用できます。これらのトピックで説明されている USB フィルタリングおよびデバイス分割機能は、View 接続サーバ 5.1 以降で使用できます。

USB リダイレクトを構成するための構文

USB デバイスをリモート デスクトップへのリダイレクト対象に含めたり除外したりするためのフィルタリング規則と分割規則を構成できます。Mac OS X クライアントでは、ターミナル (/Applications/Utilities/Terminal.app) を使用し、コマンドを、root として実行します。

- 規則を一覧表示するには:

```
# sudo defaults read <varname>
id="VARNAME_95A3DC2017354B8FA8955CED8F69664D">domain</varname>
```

例:

```
# sudo defaults read com.vmware.viewusb
```

- 規則を削除するには:

```
# sudo defaults delete <varname>
id="VARNAME_E3808110D7D140F3ABFD8180E81A519F">domain property</varname>
```

例:

```
# sudo defaults delete com.vmware.viewusb ExcludeVidPid
```

- フィルタ規則を設定または置き換えるには:

```
# sudo defaults write <varname>
id="VARNAME_46C33BABB1243C4AE3F4C9D16FE45C0">domain property value</varname>
```

例：

```
# sudo defaults write com.vmware.viewusb ExcludeVidPid vid-1234_pid-5678
```

重要 一部の構成パラメータでは、USB デバイスに VID (vendor ID) および PID (product ID) が必要です。VID および PID を見つけるには、**vid** および **pid** と組み合わせられた製品名をインターネット検索できます。あるいは、Horizon View Client の実行中に、USB デバイスをローカル システムに接続して USB ログ ファイルを調べることができます。詳細については、[「USB リダイレクト用のログ処理をオンにする \(P. 36\)」](#) を参照してください。

- コンポジット デバイスの分割規則を設定または置き換えるには：

```
# sudo defaults write <varname  
id="VARNAME_5201E63FDD54D1ABEC023C9FF47AA34">domain property value</varname>
```

例：

```
# sudo defaults write com.vmware.viewusb AllowAutoDeviceSplitting true  
# sudo defaults write com.vmware.viewusb SplitExcludeVidPid vid-03f0_Pid-2a12  
# sudo defaults write com.vmware.viewusb SplitVidPid "'vid-0911_Pid-149a(exintf:  
03)'"  
# sudo defaults write com.vmware.viewusb IncludeVidPid vid-0911_Pid-149a
```

コンポジット USB デバイスは、ビデオ入力デバイスやストレージ デバイスなど、2 つ以上のデバイスの組み合わせで構成されます。この例の最初の行は、コンポジット デバイスの自動分割をオンにします。2 行目は、指定したコンポジット デバイス (**Vid-03f0_Pid-2a12**) を分割から除外します。

3 行目の指示により、Horizon View Client は、異なるコンポジット デバイス (**Vid-0911_Pid-149a**) のコンポーネントを個別のデバイスとして処理しますが、次のコンポーネントはリダイレクトから除外します：インターフェイスの番号が 03 のコンポーネント。このコンポーネントはローカルのままになります。

このコンポジット デバイスには、マウスやキーボードなど通常はデフォルトで除外されるコンポーネントが含まれているため、コンポジット デバイス **Vid-0911_Pid-149a** の他のコンポーネントがリモート デスクトップにリダイレクトできるように、4 行目が必要となります。

最初の 3 つのプロパティは、分割プロパティです。最後のプロパティはフィルタリング プロパティです。フィルタリング プロパティは、分割プロパティの前に処理されます。

例: USB イーサネット デバイスの除外

リダイレクトから除外したくなる USB デバイスとして、たとえば USB イーサネット デバイスがあります。Mac が USB イーサネット デバイスを使用して Mac クライアント システム用のネットワークをリモート デスクトップに接続するとします。USB イーサネット デバイスをリダイレクトする場合、ローカル クライアント システムは、ネットワークおよびリモート デスクトップとの接続を失います。

このデバイスを USB 接続メニューで永続的に非表示にする場合、または USB デバイスを自動接続するようにリモート デスクトップを設定している場合は、イーサネット接続を除外するための例外を追加できます。

```
sudo defaults write com.vmware.viewusb ExcludeVidPid vid-<varname  
id="VARNAME_59F5F46045C64F50BC2EAC24D891DD2F">xxxx</varname>_pid-<varname  
id="VARNAME_5901CF9553E84DC7A32D7C86D3892352">yyyy</varname>
```

この例では、<xxxx> はベンダー ID で、<yyyy> は USB イーサネット アダプタの製品 ID です。

USB リダイレクトのプロパティ

フィルタリング規則を作成するときは、USB リダイレクトのプロパティを使用することができます。

表 4-2. USB リダイレクト用の構成プロパティ

ポリシー名とプロパティ	説明
Allow Auto Device Splitting (自動デバイス分割を許可する) プロパティ: AllowAutoDeviceSplitting	(Horizon View Client 2.0 以降) コンポジット USB デバイスの自動分割を許可します。デフォルト値は未定義で、 false と同じです。
Exclude Vid/Pid Device From Split (Vid/Pid デバイスを分割から除外する) プロパティ: SplitExcludeVidPid	(Horizon View Client 2.0 以降) ベンダーおよび製品 ID で指定されたコンポジット USB デバイスを分割から除外します。設定のフォーマットは、 vid-<xxx1>_pid-<yyy1>;vid-<xxx2>_pid-<yyy2> ... です。 ID 番号は 16 進数で指定する必要があります。ID の個々の数字の位置にワイルドカード文字 (*) を使用できます。 例: vid-0781_pid-55** デフォルト値は定義されていません。
Split Vid/Pid Device (Vid/Pid デバイスを分割) プロパティ: SplitVidPid	(Horizon View Client 2.0 以降) ベンダーおよび製品 ID で指定されたコンポジット USB デバイスのコンポーネントを、個別のデバイスとして扱います。設定の形式: vid-<xxxx>_pid-<yyyy>([exintf:<zz>;[exintf:<www>]])[;...] です。 exintf というキーワードを使用すれば、インターフェイス番号を指定することで、コンポーネントをリダイレクトから除外することができます。ID 番号は 16 進数で指定し、インターフェイス番号は先行ゼロをすべて含む 10 進数で指定する必要があります。ID の個々の数字の位置にワイルドカード文字 (*) を使用できます。 例: vid-0781_pid-554c(exintf:01;exintf:02) 注意 マウスやキーボード コンポーネントなどの自動的に除外されるコンポーネントがコンポジット デバイスに含まれている場合、View は明示的に除外されないコンポーネントを自動的に含むことはありません。これらのコンポーネントを含めるには、 Include Vid/Pid Device (Vid/Pid デバイスを含める) などのフィルタ ポリシーを指定する必要があります。デフォルト値は定義されていません。
Allow Audio Input Devices (オーディオ入力デバイスを許可する) プロパティ: AllowAudioIn	オーディオ入力デバイスのリダイレクトを許可します。 デフォルト値は定義されていませんが、これは true が設定されている場合に相当します。
Allow Audio Output Devices (オーディオ出力デバイスを許可する) プロパティ: AllowAudioOut	オーディオ出力デバイスのリダイレクトを許可します。 デフォルト値は未定義で、 false と同じです。
HID を許可する プロパティ: AllowHID	キーボードまたはマウス以外の入力デバイスのリダイレクトを許可します。 デフォルト値は定義されていませんが、これは true が設定されている場合に相当します。
Allow HIDBootable (HID 起動可能なデバイスを許可する) プロパティ: AllowHIDBootable	キーボードとマウス以外で、起動時に利用可能な入力デバイス (HID 起動可能なデバイス) のリダイレクトを許可します。 デフォルト値は定義されていませんが、これは true が設定されている場合に相当します。
デバイス記述子のフェイルセーフ機能を許可する プロパティ: AllowDevDescFailsafe	Horizon View Client で構成/デバイスの記述子を取得できない場合でも、デバイスのリダイレクトを許可します。 config/desc が失敗してもデバイスを許可するには、 IncludeVidPid または IncludePath などの Include フィルタにそれを含まます。 デフォルト値は未定義で、 false と同じです。

表 4-2. USB リダイレクト用の構成プロパティ (続き)

ポリシー名とプロパティ	説明
Allow Keyboard and Mouse Devices (キーボードおよびマウス デバイスを許可する) プロパティ : AllowKeyboardMouse	統合型ポインティング デバイス (マウス、トラックボール、タッチパッドなど) 付きキーボードのリダイレクトを許可します。 デフォルト値は未定義で、 false と同じです。
Allow Smart Cards (スマートカードを許可する) プロパティ : AllowSmartcard	スマートカード デバイスのリダイレクトを許可します。 デフォルト値は未定義で、 false と同じです。
Allow Video Devices (ビデオ デバイスを許可する) プロパティ : AllowVideo	ビデオ デバイスのリダイレクトを許可します。 デフォルト値は定義されていませんが、これは true が設定されている場合に相当します。
Disable Remote Configuration Download (リモート構成のダウンロードを無効にする) プロパティ : DisableRemoteConfig	USB デバイスのフィルタリングを実行するときは、View Agent 設定の使用を無効にします。 デフォルト値は未定義で、 false と同じです。
すべてのデバイスを除外する プロパティ : ExcludeAllDevices	リダイレクト対象からすべての USB デバイスを除外します。 true に設定すると、その他のポリシー設定を使用して、特定のデバイスまたはデバイス ファミリがリダイレクトされるようにすることができます。 false に設定すると、その他のポリシー設定を使用して、特定のデバイスまたはデバイス ファミリがリダイレクトされるのを防止できます。 View Agent で Exclude All Devices の値を true に設定し、この設定が Horizon View Client に渡されると、View Agent の設定によって Horizon View Client の設定はオーバーライドされます。 デフォルト値は未定義で、 false と同じです。
Exclude Device Family (デバイス ファミリーを除外する) プロパティ : ExcludeFamily	リダイレクト対象からデバイス ファミリーを除外します。設定の形式 : <family_name_1>[;<family_name_2>].. 例 : bluetooth;smart-card デフォルト値は定義されていません。 注意 (Horizon View Client 2.0 以降) 自動デバイス分割を有効にすると、View がコンポジット USB デバイスの各インターフェイスのデバイス ファミリーを調べ、除外するインターフェイスを決定します。自動デバイス分割を無効にした場合、View はコンポジット USB デバイス全体のデバイス ファミリーを調べます。
Exclude Vid/Pid Device (Vid/Pid デバイスを除外する) プロパティ : ExcludeVidPid	指定したベンダーとプロダクト ID のデバイスを、リダイレクト対象から除外します。設定の形式 : vid-<xxx1>_pid-<yyy2>[;vid-<xxx2>_pid-<yyy2>].. ID 番号は 16 進数で指定する必要があります。ID の個々の数字の位置にワイルドカード文字 (*) を使用できます。 例 : vid-0781_pid-****;vid-0561_pid-554c デフォルト値は定義されていません。
Exclude Path (パスを除外する) プロパティ : ExcludePath	特定のハブまたはポートのパスにあるデバイスをリダイレクト対象から除外します。設定の形式 : bus-<x1>[/<y1>]..._port-<z1>[;<x2>[/<y2>]..._port-<z2>].. バスやポート番号は 16 進数で指定する必要があります。パスにワイルドカード文字を使用することはできません。 例 : bus-1/2/3_port-02;bus-1/1/1/4_port-ff デフォルト値は定義されていません。
Include Device Family (デバイス ファミリーを含める) プロパティ : IncludeFamily	デバイス ファミリーをリダイレクト対象に含めます。設定の形式 : <family_name_1>[;<family_name_2>].. 例 : ストレージ デフォルト値は定義されていません。

表 4-2. USB リダイレクト用の構成プロパティ (続き)

ポリシー名とプロパティ	説明
Include Path (パスを含める) プロパティ: IncludePath	特定のハブやポートのパスにあるデバイスをリダイレクト対象に含めます。設定のフォーマットは、 bus-<x1>[/<y1>]..._port-<z1>[;bus-<x2>[/<y2>]..._port-<z2>]... です。 パスやポート番号は 16 進数で指定する必要があります。パスにワイルドカード文字を使用することはできません。 例: bus-1/2_port-02;bus-1/7/1/4_port-0f デフォルト値は定義されていません。
Include Vid/Pid Device (Vid/Pid デバイスを含める) プロパティ: IncludeVidPid	指定したベンダーとプロダクト ID のデバイスを、リダイレクト対象に含めます。設定の形式: vid-<xxx1>_pid-<yyy2>[;vid-<xxx2>_pid-<yyy2>]... ID 番号は 16 進数で指定する必要があります。ID の個々の数字の位置にワイルドカード文字 (*) を使用できます。 例: vid-0561_pid-554c デフォルト値は定義されていません。

USB デバイス ファミリ

Horizon View Client または View Agent の USB フィルタリング規則を作成する場合にファミリを指定できます。

表 4-3. USB デバイス ファミリ

デバイス ファミリ名	説明
audio	すべてのオーディオ入力またはオーディオ出力デバイス。
audio-in	マイクロフォンなどのオーディオ入力デバイス。
audio-out	ラウドスピーカーおよびヘッドホンなどのオーディオ出力デバイス。
bluetooth	Bluetooth に接続されたデバイス。
comm	モデムおよび有線ネットワーク アダプタなどの通信デバイス。
hid	キーボードおよびポインティング デバイスを除くヒューマン インターフェイス デバイス。
hid-bootable	キーボードおよびポインティング デバイスを除く、起動時に使用できるヒューマン インターフェイス デバイス。
imaging	スキャナなどの画像デバイス。
keyboard	キーボード デバイス。
mouse	マウスなどのポインティング デバイス。
その他	ファミリが指定されていません。
pda	携帯情報端末。
physical	カフィードバック ジョイスティックなどのカフィードバック デバイス。
printer	印刷デバイス。
security	指紋読み取りなどのセキュリティ デバイス。
smart-card	スマート カード デバイス。
ストレージ	フラッシュ ドライブおよび外部ハードディスク ドライブなどの大容量ストレージ デバイス。
unknown	ファミリが不明です。
vendor	ベンダ固有の機能のあるデバイス。
video	ビデオ入力デバイス。
wireless	無線ネットワーク アダプタ。
wusb	無線 USB デバイス。

USB リダイレクト用のログ処理をオンにする

USB ログを使用して、トラブルシューティングを行ったり、クライアント システムに接続するさまざまなデバイスの製品 ID やベンダー ID を決定したりできます。

トレース ログ処理を、現在のセッションのみに対して、またはレポートをまたいで、有効にすることができます。ログ処理を現在のセッションに対して有効にするには、シェル コマンドを使用します。複数のレポートをまたいだログ処理を有効にするには、シェル コマンドを適切なプロファイル ファイルに追加します。

開始する前に

トレース ログ処理がシステム リポートをまたいで持続するように構成したい場合は、クライアント システム上で管理者またはルートの権限を持っている必要があります。現在のセッションに対してのみログ処理を有効化したい場合は、この条件は該当しません。

手順

- ログ処理を現在のセッションのみに対して有効にするには、**launchctl** コマンドを使用します。
 - a USB サービス デモンを停止させるために、Horizon View Client を終了します。
 - b Horizon View Client を起動するユーザーと同一のユーザーとして、シェル (/Applications/Utilities/Terminal.app) を開きます。
 - c 次のコマンドを使用します。


```
launchctl setenv VMWARE_VIEW_USBD_LOG_OPTIONS "--o log:trace"
```
 - d Horizon View Client を再起動します。
- 再起動後もログ記録を有効にするには、適切なシェル **rc**、またはデフォルトの Mac OS X シェルの `~/.bash_profile` など、ユーザーが選択したプロファイル ファイルに **launchctl** コマンドを追加します。

以下は、追加する **launchctl** コマンドの例です。

```
setenv VMWARE_VIEW_USBD_LOG_OPTIONS "--o log:trace"
```

Webcam とマイクロフォンでリアルタイム オーディオ ビデオ機能を使用

リアルタイム オーディオ ビデオ機能を使用すれば、リモート デスクトップでローカル コンピュータの webcam またはマイクロフォンを使用できます。

VMware Horizon View 5.2 Feature Pack 2 以降のリリースを併用すれば、この機能を使用できます。リアルタイム オーディオ ビデオのセットアップおよびフレーム レートと画像解像度のリモート デスクトップでの構成の詳細については、『VMware Horizon View Feature Pack のインストールと管理ガイド』を参照してください。クライアント システムでのこれらの設定については、VMware ナレッジ ベースの記事、『Setting Frame Rates and Resolution for Real-Time Audio-Video on Horizon View Clients (Horizon View Client でのリアルタイム オーディオ-ビデオのフレームレートと解像度の設定)』 (<http://kb.vmware.com/kb/2053644>) を参照してください。

リアルタイム オーディオ ビデオ機能の適切なインストールと操作を検証するテスト アプリケーションをダウンロードするには、<http://labs.vmware.com/flings/real-time-audio-video-test-application> にアクセスしてください。このテスト アプリケーションは VMware が無償提供するものであるため、テクニカル サポートは提供されません。

Webcam を使用できる場合

Horizon View 管理者がリアルタイム オーディオ ビデオ機能を構成していて、PCoIP 表示プロトコルをユーザーが使用している場合、内蔵またはローカル コンピュータに接続された webcam をデスクトップで使用できます。Skype、Webex、または Google ハングアウトなどの会議アプリケーションで webcam を使用できます。

Skype、Webex、または Google ハングアウトなどのアプリケーションをリモート デスクトップに設定中に、入力デバイスとして VMware Virtual Microphone および VMware Virtual Webcam、そして出力デバイスとして VMware Virtual Audio をアプリケーションのメニューから選択できます。ただし、この機能は多くのアプリケーションで動作し、入力デバイスの選択は不要です。

webcam がローカル コンピュータで現在使用中の場合に、リモート デスクトップで同時に使用できます。また、webcam がリモート デスクトップで使用されている場合にも同時にローカル コンピュータで使用できます。

注意 USB webcam を使用している場合は、Horizon View Client の [デスクトップ] - [USB] メニューから接続しないでください。そうすると USB リダイレクトでデバイスがルートされ、パフォーマンスがビデオ チャットでは使用に適さない状態になります。

ローカル コンピュータに複数の webcam が接続されている場合、管理者はリモート デスクトップで優先して使用する webcam を設定できます。どの webcam を選択するかが不明の場合は、Horizon View 管理者にお問い合わせください。

Mac OS X クライアント システムでのデフォルトのマイクロフォンの選択

クライアント システムに複数のマイクロフォンがある場合、リモート デスクトップで使用されるのは 1 つだけです。クライアント システムの [システム環境設定] を使用して、リモート デスクトップ用のデフォルトのマイクロフォンを指定できます。

リアルタイム オーディオ ビデオ機能を使用すれば、オーディオ入力デバイスおよびオーディオ出力デバイスは USB リダイレクトを使用せずに動作し、必要となるネットワーク帯域幅量は大幅に削減されます。アナログ オーディオ入力デバイスもサポートされます。

この手順では、クライアント システムのユーザー インターフェイスからマイクロフォンを選択する方法について説明します。管理者は、Mac OS X のデフォルトシステムを使用して優先するマイクロフォンを構成することもできます。[\[Mac OS X クライアント システムでの優先する Web カメラまたはマイクロフォンの構成 \(P. 39\)\]](#) を参照してください。

重要 USB マイクロフォンを使用している場合は、Horizon View Client の [デスクトップ] - [USB] メニューから接続しないでください。このメニューから接続すると、デバイスは USB リダイレクトによってルーティングされるので、デバイスはリアルタイム オーディオ ビデオ機能を使用できなくなります。

開始する前に

- USB マイクロフォンまたは他のタイプのマイクロフォンがインストールされ、クライアント システムで動作できる状態であることを確認します。
- リモート デスクトップに PCoIP 表示プロトコルを使用していることを確認します。

手順

- 1 クライアント システムで [Apple メニュー] - [システム環境設定] を選択して、[サウンド] をクリックします。
- 2 [サウンド環境設定] の [入力] ペインを開きます。
- 3 使用するマイクロフォンを選択します。

次回、リモート デスクトップに接続して呼び出しを開始すると、クライアント システムで選択したデフォルトのマイクロフォンがデスクトップで使用されます。

Mac OS X クライアント上でのリアルタイム オーディオ ビデオの構成

リアルタイム オーディオ ビデオ設定は、Mac OS X のデフォルト システムを使用して、コマンド ラインで構成できます。デフォルト システムでは、ターミナル (`/Applications/Utilities/ターミナル.app`) を使用することで、Mac OS X ユーザーのデフォルト設定の読み取り、書き込み、および削除を行うことができます。

Mac OS X デフォルトはドメインに属しています。ドメインは通常、個々のアプリケーションに対応します。リアルタイム オーディオ ビデオ機能のドメインは `com.vmware.rtav` です。

リアルタイム オーディオ ビデオを構成するための構文

次のコマンドを使用して、リアルタイム オーディオ ビデオ機能を構成できます。

表 4-4. リアルタイム オーディオ ビデオ構成のコマンド構文

コマンド	説明
<code>defaults write com.vmware.rtav scrWCamId "<webcam-userid>"</code>	リモート デスクトップで優先して使用する Web カメラを設定します。この値を設定しない場合、Web カメラはシステム列挙によって自動的に選択されます。クライアントシステムに接続されている (または組み込まれている) 任意の Web カメラを指定できます。
<code>defaults write com.vmware.rtav srcAudioInId "<audio-device-userid>"</code>	リモート デスクトップで優先して使用するマイクロフォン (オーディオ入力デバイス) を設定します。この値を設定しない場合、リモート デスクトップでは、クライアントシステムで設定されているデフォルトの録音デバイスが使用されます。クライアントシステムに接続されている (または組み込まれている) 任意のマイクロフォンを指定できます。
<code>defaults write com.vmware.rtav srcWCamFrameWidth<pixels></code>	画像の幅を設定します。この値には、ハードコードされた値である 320 ピクセルがデフォルトとして設定されています。画像の幅は、どのようなピクセル値にも変更できます。
<code>defaults write com.vmware.rtav srcWCamFrameHeight<pixels></code>	画像の高さを設定します。この値には、ハードコードされた値である 240 ピクセルがデフォルトとして設定されています。画像の高さは、任意のピクセル値に変更できます。
<code>defaults write com.vmware.rtav srcWCamFrameRate<fps></code>	フレーム レートを設定します。この値には、15 fps がデフォルトとして設定されています。フレーム レートは、どのような値にも変更できます。
<code>defaults write com.vmware.rtav LogLevel "<level>"</code>	リアルタイム オーディオ ビデオのログ ファイル (<code>/Library/Logs/VMware/vmware-RTAV-<pid>.log</code>) のログ レベルを設定します。ログ レベルをトレースまたはデバッグに設定できます。
<code>defaults write com.vmware.rtav IsDisabled<value></code>	リアルタイム オーディオ ビデオを有効にするか無効にするかを決定します。リアルタイム オーディオ ビデオはデフォルトで有効に設定されています (この値は適用されていません)。リアルタイム オーディオ ビデオをクライアント上で無効にするには、値を <code>true</code> に設定します。
<code>defaults read com.vmware.rtav</code>	リアルタイム オーディオ ビデオの構成設定を表示します。
<code>defaults delete com.vmware.rtav<setting></code>	リアルタイム オーディオ ビデオの構成設定を削除します。以下に例を示します。 <code>defaults delete com.vmware.rtav srcWCamFrameWidth</code>

注意 フレーム レートを 1 fps から最大 25 fps まで、解像度を最大 1920x1080 まで調整できます。デバイスまたは環境によっては、高速フレーム レートでの高解像度がサポートされないことがあります。

Mac OS X クライアント システムでの優先する Web カメラまたはマイクロフォンの構成

リアルタイム オーディオ ビデオ機能を使用し、クライアントシステムに複数の web カメラとマイクロフォンがある場合、リモートデスクトップで使用できるのは 1 台の Web カメラと 1 台のマイクロフォンだけです。Mac OS X のデフォルトシステムを使用して、優先する Web カメラとマイクロフォンをコマンドラインで指定します。

リアルタイム オーディオ ビデオ機能を使用すると、Web カメラ、オーディオ入力デバイス、オーディオ出力デバイスは、USB リダイレクトなしで動作し、必要なネットワーク帯域幅量が大幅に軽減します。アナログオーディオ入力デバイスもサポートされます。

ほとんどの環境では、優先マイクロフォンまたは Web カメラを設定する必要はありません。優先マイクロフォンを設定しない場合、リモート デスクトップでは、クライアントシステムの [システム環境設定] で設定されたデフォルトのオーディオ デバイスが使用されます。[\[Mac OS X クライアントシステムでのデフォルトのマイクロフォンの選択 \(P. 37\)\]](#) を参照してください。優先 Web カメラを構成しない場合、リモート デスクトップでは、列挙された順に従って Web カメラが選択されます。

開始する前に

- 優先 USB Web カメラを構成する場合は、その Web カメラがクライアントシステムにインストールされ、動作できる状態であることを確認します。
- 優先 USB マイクロフォンまたは他のタイプのマイクロフォンを構成する場合は、そのマイクロフォンがクライアントシステムにインストールされ、動作できる状態であることを確認します。
- リモート デスクトップに PCoIP 表示プロトコルを使用していることを確認します。

手順

- 1 Mac OS X クライアントシステムで Web カメラまたはマイクロフォン アプリケーションを起動して、カメラ デバイスまたはオーディオ デバイスの列挙を Real-Time Audio-Video ログ ファイルにトリガします。
 - a Web カメラまたはオーディオ デバイスを取り付けます。
 - b [アプリケーション] フォルダで [VMware Horizon View Client] をダブルクリックして、Horizon View Client を起動します。
 - c 呼び出しを開始し、そして呼び出しを停止します。
- 2 リアルタイム オーディオ ビデオ ログ ファイル内で、Web カメラまたはマイクロフォンのログ エントリを見つけます。
 - a リアルタイム オーディオ ビデオ ログ ファイルをテキスト エディタで開きます。
リアルタイム オーディオ ビデオ ログファイルには /Library/Logs/VMware/vmware-RTAV-<pid>.log という名前が付けられており、ここで <pid> は現在のセッションの処理 ID を表します。
 - b リアルタイム オーディオ ビデオ ログ ファイルで、接続された Web カメラまたはマイクロフォンを特定するエントリを探します。

次の例では、リアルタイム オーディオ ビデオ ログ ファイルで Web カメラのエントリがどのように表示されるかを示します。

```
2013-12-16T12:18:17.404Z| vthread-3| I120:RTAV:static void
VideoInputBase::LogDevEnum() - 1 Device(s) found
2013-12-16T12:18:17.404Z| vthread-3| I120:RTAV:static void
VideoInputBase::LogDevEnum() - Name=FaceTime HD Camera (Built-in)  UserId=FaceTime
HD Camera (Built-in)#0xfa20000005ac8509  SystemId=0xfa20000005ac8509
```

次の例では、リアルタイム オーディオ ビデオ ログ ファイルでマイクロフォンのエントリがどのように表示されるかを示します。

```
2013-12-16T12:18:17.404Z| vthread-3| I120:RTAV:int
AVCaptureEnumerateAudioDevices(MMDev::DeviceList&) -
2013-12-16T12:18:17.404Z| vthread-3| I120:RTAV:static void
AudioCaptureBase::LogDevEnum() - 2 Device(s) found
2013-12-16T12:18:17.404Z| vthread-3| I120:RTAV:static void
AudioCaptureBase::LogDevEnum() - Index=255 Name=Built-in Microphone
UserId=Built-in Microphone#AppleHDAEngineInput:1B,0,1,0:1
SystemId=AppleHDAEngineInput:1B,0,1,0:1
2013-12-16T12:18:17.404Z| vthread-3| I120:RTAV:static void
AudioCaptureBase::LogDevEnum() - Index=255 Name=Built-in Input UserId=Built-in
Input#AppleHDAEngineInput:1B,0,1,1:2 SystemId=AppleHDAEngineInput:1B,0,1,1:2
```

- リアルタイム オーディオ ビデオ ログ ファイルで、優先する Web カメラまたはマイクロフォンを見つけ、そのユーザー ID をメモします。

ログファイルでは、ユーザー ID が文字列 `UserId=` の後に表示されます。たとえば、内蔵フェイス タイム カメラのユーザー ID は FaceTime HD Camera (組み込み) で、内蔵マイクロフォンのユーザー ID は Built-in Microphone です。

- ターミナル (`/Applications/Utilities/Terminal.app`) で `defaults write` コマンドを使用して、優先する Web カメラまたはマイクロフォンを設定します。

オプション	アクション
優先する Web カメラを設定する	「 <code>defaults write com.vmware.rtav srcWCamId "<webcam-userid>"</code> 」と入力します。ここで、 <code><webcam-userid></code> は、リアルタイム オーディオ ビデオ ログ ファイルで取得した、優先する Web カメラのユーザー ID です。 例： <code>defaults write com.vmware.rtav srcWCamId "HD Webcam C525"</code>
優先するマイクロフォンを設定する	「 <code>defaults write com.vmware.rtav srcAudioInId "<audio-device-userid>"</code> 」と入力します。ここで、 <code><audio-device-userid></code> は、リアルタイム オーディオ ビデオ ログ ファイルで取得した、優先するマイクロフォンのユーザー ID です。例： <code>defaults write com.vmware.rtav srcAudioInId "Built-in Microphone"</code>

- (オプション) `defaults read` コマンドを使用して、リアルタイム オーディオ ビデオ機能への変更を確認します。

例：`defaults read com.vmware.rtav`

このコマンドにより、リアルタイム オーディオ ビデオ設定のすべてが表示されます。

次回、リモート デスクトップに接続して新しい呼び出しを開始すると、構成した優先 Web カメラまたはマイクロフォンが使用されます (利用可能な場合)。優先 Web カメラまたはマイクロフォンが利用できない場合、リモート デスクトップは別の利用可能な Web カメラまたはマイクロフォンを使用できます。

テキストとイメージのコピー アンド ペースト

デフォルトでは、クライアント システムからリモート デスクトップにテキストをコピー アンド ペーストできます。管理者がこの機能を有効にすると、リモート デスクトップとクライアント システム間、または 2 台のリモート デスクトップ間でテキストをコピー アンド ペーストすることもできます。制限事項がいくつか存在します。

PCoIP 表示プロトコルを使用し、Horizon View 5.x 以降のリモート デスクトップを使用している場合、View 管理者は、クライアント システムからリモート デスクトップに限り、またはリモート デスクトップからクライアント システムに限り、コピー アンド ペースト操作を許可するように設定できます。また、双方向のコピー アンド ペースト操作を許可したり、これらの操作を禁止したりすることもできます。

管理者は、View Agent をリモート デスクトップに関連付けるグループ ポリシー オブジェクト (GPO) を使用して、コピー アンド ペーストの機能を構成できます。詳細については、『VMware Horizon View 管理者ガイド』の設定ポリシーの章の View PCoIP 一般セッション変数についてのトピックを参照してください。

サポートされるファイル フォーマットには、テキスト、イメージ、および RTF (Rich Text Format) が含まれます。クリップボードは、コピー アンド ペースト操作で 1MB のデータを処理できます。フォーマットされたテキストをコピーする場合、データの一部がテキストで、一部のデータはフォーマットされた情報となります。たとえば、800KB のドキュメントでは、200KB を超える RTF データがクリップボードに置かれるので、コピー時にデータが 1MB を超える場合があります。

大容量のフォーマットされたテキスト、またはテキストとイメージをコピーする場合、テキストとイメージをペーストする時は、プレーンテキストの一部またはすべてを見ることができませんが、フォーマットまたはイメージを見ることができないケースがあります。その理由は、3 種類のデータが分割されて保存される場合があるからです。たとえば、コピーされるドキュメントのタイプによっては、イメージはイメージまたは RTF データとして保存される場合があります。

テキストと RTF データが合計で 1MB 未満であれば、フォーマットされたテキストがペーストされます。RTF データは多くの場合分割ができないため、テキストとフォーマットが 1MB を超える場合、RTF データは破棄されてプレーンテキストがペーストされます。

1 回の操作で選択したフォーマットされたテキストとイメージすべてをペーストできない場合、1 回の操作で小さいサイズをコピー アンド ペーストする必要があります。

リモート デスクトップとクライアント コンピュータのファイル システム間では、ファイルをコピー アンド ペーストすることができません。

リモート デスクトップからの印刷

リモート デスクトップから、仮想プリンタ、またはクライアント コンピュータに接続された USB プリンタで印刷を実行できます。仮想印刷と USB 印刷は競合せずに連携して動作します。

Mac OS X Client で仮想印刷を有効にする

Horizon View Client 2.1 以降で PCoIP 表示プロトコルを使用している場合、仮想マシンにプリンタ ドライバをインストールしなくても、ローカル コンピュータ用に構成されたプリンタを仮想マシンから使用できます。

仮想印刷機能は、ドライバをインストールせずに使用できます。

仮想印刷機能を有効にすると、[デスクトップ] メニューに [印刷は有効] と表示されます。

Horizon View Client の初回起動時に、仮想印刷を有効にできます。Horizon View Client で、リモート デスクトップ USB と印刷サービスを起動するようにメッセージが表示されたら、[続行] をクリックして、システム認証情報を入力します。

Horizon View Client の初回起動時に仮想印刷を有効にしなくても、[デスクトップ] メニューを使用して仮想印刷を有効にすることができます。

- デスクトップに接続する前に仮想印刷を有効にするには、[VMware Horizon View Client] メニューから [デスクトップ > 印刷サービスを開始] を選択します。[リモート デスクトップ印刷サービスを開始] ダイアログ ボックスで [続行] をクリックし、システム認証情報を入力します。
- デスクトップに接続した後で仮想印刷を有効にするには、[VMware Horizon View Client] メニューから [デスクトップ > 印刷サービスを開始] を選択します。[続行] をクリックしてシステム認証情報を入力し、デスクトップに再接続します。デスクトップへの再接続をキャンセルする場合は、[デスクトップ] - [印刷を有効] をクリックすると、Horizon View Client により、デスクトップに再接続するよう指示されます。

仮想プリンタ機能の印刷設定を行う

仮想印刷機能を使用すると、リモート デスクトップに追加のプリンタ ドライバをインストールする必要なく、エンド ユーザーがリモート デスクトップからローカル プリンタまたはネットワーク プリンタを使用できます。この機能で使用可能なプリンタごとに、データ圧縮、印刷品質、両面印刷、カラーなどの環境設定ができます。

ローカル コンピュータ上でプリンタを追加すると、Horizon View Client では、リモート デスクトップで使用可能なプリンタのリストにもそのプリンタが追加されます。何も構成する必要はありません。その場合でも、管理者権限のあるユーザーは、仮想プリンタ コンポーネントと競合することなくリモート デスクトップにプリンタ ドライバをインストールできます。

重要 この機能は次の種類のプリンタには使用できません。

- USB リダイレクト機能を使用してリモート デスクトップの仮想 USB ポートに接続する USB プリンタ。
リモート デスクトップで仮想印刷機能を使用するには、リモート デスクトップから USB プリンタを切断する必要があります。
 - ファイルに印刷するための Windows 機能
[Print (印刷)] ダイアログ ボックスで [Print to file (ファイルへ出力)] を選択しても動作しません。ファイルを作成するプリンタ ドライバを使用すると動作します。たとえば、PDF ライターを使用すると PDF ファイルに出力できます。
-

この手順は、Windows 7 または Windows 8.x (デスクトップ) オペレーティングシステムのリモート デスクトップ用に記述されています。この手順は、Windows XP および Windows Vista のものと似ていますが、まったく同一というわけではありません。

開始する前に

View Agent の仮想印刷コンポーネントがリモート デスクトップにインストールされていることを確認します。リモート デスクトップ ファイルシステムでは、ドライバは **C:\Program Files\Common Files\VMware\Drivers\Virtual Printer** にあります。

View Agent のインストールは、仮想マシンをリモート デスクトップとして使用するための準備に必要な作業の 1 つです。詳細については、『VMware Horizon View 管理ガイド』を参照してください。

手順

- 1 Windows 7 または Windows 8.x のリモート デスクトップでは、[スタート]-[デバイスとプリンタ] をクリックします。
- 2 [デバイスとプリンタ] ウィンドウでデフォルト プリンタを右クリックし、コンテキスト メニューから [プリンタ プロパティ] を選択し、プリンタを選択します。
リモート デスクトップで、仮想プリンタは「<<プリンタ名>#:<番号>>」のように表示されます。
- 3 [プリンタ プロパティ] ウィンドウで、[デバイス設定] タブをクリックし、使用する設定を指定します。
- 4 [全般] タブで、[環境設定] をクリックして使用する設定を指定します。
- 5 [印刷設定] ダイアログ ボックスで、異なるタブを選択して使用する設定を指定します。
[ページ調整] の詳細設定については、VMware はデフォルト設定を推奨しています。
- 6 [OK] をクリックします。

USB プリンタの使用

Horizon View 環境では、仮想プリンタおよびリダイレクトされた USB プリンタは競合することなく共に動作します。

USB プリンタは、ローカル クライアント システムの USB ポートに接続されるプリンタです。印刷ジョブを USB プリンタに送信するには、USB リダイレクト機能を使用するか、仮想印刷機能を使用できます。USB 印刷は、ネットワーク状況によって、仮想プリンタよりも高速になる場合があります。

- 必要なドライバがリモート デスクトップにもインストールされていれば、USB リダイレクト機能を使用して USB プリンタをリモート デスクトップの仮想 USB ポートに接続できます。

このリダイレクト機能を使用すると、プリンタは論理的にはクライアントの物理 USB ポートに接続されなくなるので、USB プリンタは、ローカル クライアント マシンのローカル プリンタのリストには表示されません。これはまた、ローカル クライアント マシンからではなく、リモート デスクトップからも USB プリンタに印刷できることを意味します。

リモート デスクトップで、リダイレクトされた USB プリンタは <<printer_name>> のように表示されます。

USB プリンタの接続方法の詳細は、「[USB デバイスの接続 \(P. 29\)](#)」を参照してください。

- 一部のクライアントでは、仮想印刷機能を代わりに使用して USB プリンタに印刷ジョブを送信できます。仮想印刷機能を使用する場合、リモート デスクトップとローカル クライアントの両方から USB プリンタに印刷でき、リモート デスクトップにプリンタ ドライバをインストールする必要はありません。

PCoIP クライアントサイド イメージ キャッシュ

PCoIP クライアントサイド イメージ キャッシングでは、再送信を回避するためにイメージコンテンツをクライアントに保存します。この機能は帯域幅の使用を減らします。

重要 この機能は、View Agent および View 接続サーバが View 5.0 以降のバージョンである場合のみ使用可能です。

PCoIP イメージ キャッシュは、一時的なものと同様、空間的冗長性をキャプチャします。たとえば、PDF ドキュメントをスクロールダウンすると、ウィンドウの下部から新しいコンテンツが表示され、一番古いコンテンツはウィンドウのトップから表示されなくなります。他のコンテンツはすべて変わらず、上に移動します。PCoIP イメージ キャッシュは、この空間的で時間的な冗長性を検出できます。

スクロールの間、クライアント デバイスに送られたディスプレイ情報は、主として、かなりの大きさの帯域幅を保存するイメージ キャッシュを使用しているキャッシュ インデックスのシーケンスです。このように効率的なスクロールは、LAN 上、WAN を介する場合のいずれもメリットがあります。

- LAN 上では、帯域幅は比較的制約がありませんが、クライアントサイド イメージ キャッシングを使用しており、かなりの大きさの帯域幅を節約できます。
- WAN を介して、利用可能な帯域幅の制限内に抑えるには、クライアントサイドのキャッシングなしではスクロールのパフォーマンスが低下します。WAN 介して、クライアントサイドのキャッシングにより帯域幅が節約され、スムーズで高感度のスクロール体験が可能になります。

クライアントサイド キャッシングでは、クライアントは以前に転送した表示部分を保存します。キャッシュ サイズは 250 MB です。

Horizon View Client 2.0 以降のバージョンでは、Horizon View 5.2 サーバおよびデスクトップを使用する場合、90MB のクライアント側のキャッシュにより、以前のバージョンで 250MB のキャッシュを使用した場合に相当するパフォーマンスが実現します。

Horizon View Client のトラブルシューティング

5

デスクトップをリセットするか、VMware Horizon View Client アプリを再インストールすることによって、Horizon View Client のほとんどの問題を解決できます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [デスクトップのリセット \(P. 45\)](#)
- [Horizon View Client のアンインストール \(P. 46\)](#)

デスクトップのリセット

デスクトップ オペレーティング システムが応答しなくなった場合、デスクトップのリセットが必要な場合があります。リセット操作を実行すると、デスクトップがシャットダウンおよび再起動されます。保存されていないデータは失われます。

リモート デスクトップをリセットする操作は、物理的な PC を強制的に再起動するためにその PC のリセット ボタンを押す操作に相当します。リモート デスクトップで開いているすべてのファイルが、保存されずに閉じられることとなります。

デスクトップをリセットできるのは、View 管理者がこの機能を有効にしている場合のみです。

手順

- ◆ [リセット] コマンドを使用します。

オプション	操作
デスクトップのオペレーティング システムで	メニュー バーから [デスクトップ] - [リセット] を選択します。
サーバ アイコンがあるホーム画面から	a サーバ アイコンをダブルクリックし、認証情報を入力します。 認証情報には、RSA SecurID 認証情報やデスクトップにログインするための認証情報が含まれる場合があります。 b デスクトップを選択し、メニュー バーから [デスクトップ] - [リセット] を選択します。
デスクトップ アイコンがあるホーム画面から	デスクトップを選択し、メニュー バーから [デスクトップ] - [リセット] を選択します。

リモート デスクトップのオペレーティング システムは再起動されます。Horizon View Client はデスクトップから切断されます。

次に進む前に

リモート デスクトップに接続する前に、システムが完全に起動するまで待機します。

Horizon View Client のアンインストール

Horizon View Client の問題は、Horizon View Client アプリケーションをアンインストールして再インストールすると解決することがあります。

他のアプリケーションをアンインストールするときと同じ方法で Horizon View Client をアンインストールします。

[アプリケーション] フォルダから [VMware Horizon View Client] アプリケーションを [ゴミ箱] にドラッグして、ゴミ箱を空にします。

アンインストールが完了したら、アプリケーションを再インストールできます。

[「Mac OS X に Horizon View Client をインストール \(P. 11\)」](#) を参照してください。

インデックス

C

Ctrl+Alt+Delete 24
Ctrl+Alt+Del メニューコマンドノソウシン 24

D

Dock 12

H

Horizon View Client
Mac OS X のシステム要件 7
Mac OS X へのインストール 11
Mac クライアントのセットアップ 7
View Portal を使用したダウンロード 9
起動 21
デスクトップから切断 24
トラブルシューティング 45

M

Mac OS X
Horizon View Client のインストール先 7
View Client のインストール 11
Mac 版 View Client 5

O

OS X、Horizon View Client のインストール 11

P

PCoIP クライアント イメージ キャッシュ 43

R

Retina Display 28

S

SSL 証明書、検証 12

T

ThinPrint のセットアップ 42

U

UPN、Horizon View Client 21
URI (uniform resource identifiers) 15
URI 例 18
USB デバイス 29
USB デバイスの自動接続 29
USB デバイスの転送 31
USB デバイス ファミリ 35

USB プリンタ 41, 43
USB リダイレクト 31, 36

V

View Agent、インストール要件 9
View Client 用の URI 構文 16
View Client のアンインストール 46
View Portal 9
View 接続サーバ、ショートカット 25
View 接続サーバのショートカット 25

W

webcam 36, 37, 39
Windows デスクトップ 27

い

イメージ、コピー 40
イメージ キャッシュ、クライアント 43

お

オペレーティング システム、View Agent でサポート
されている 9

か

カスタマー エクスペリエンス プログラム、デスクトッ
プ プール データ 12
仮想印刷 41
仮想印刷機能 42
仮想プリンタ 41

き

機能サポート一覧、Mac OS X 向け 27
キャッシング、クライアントサイド イメージ 43

く

クライアント イメージ キャッシュ 43
クライアント デバイスの前提条件 9

こ

国際化 28

さ

サーバ証明書の検証 12
サーバ ショートカット 25
サーバ接続 21

し

システム要件、Mac OS X 向け 7
証明書、問題の無視 12, 23
証明書確認の検証モード 12
ショートカットの順序変更 25

せ

セキュリティ サーバ 9
接続、USB デバイス 29

て

テキスト、コピー 40
テキストとイメージのコピー 40
テキストとイメージのペースト 40
デスクトップ
 切り替え 24
 リセット 45
 ロールバック 26
 ログオフ 24
デスクトップから印刷 41
デスクトップの切り替え 24
デスクトップのリセット 45
デバイス
 USB 31, 36
 USB 接続 29
デバイス ファミリ 35

と

トラブルシューティング 45

は

ハードウェア要件、Mac 7

ふ

複数のモニタ 28
プリンタ、設定 42

ま

マイクフォン 37

り

リアルタイム オーディオ ビデオ、システム要件 8
リダイレクト
 USB 31, 36
 USB デバイスのプロパティ 33
リモート デスクトップ、ロールバック 26
リモート デスクトップから切断 24
リモート デスクトップの検索 24
リモート デスクトップのロールバック 26
リモート デスクトップへの再ログイン 21

ろ

ログ、USB デバイス用 36